

# 東京外国語大学

## 2022 年度 年次計画 実績報告書

### Annual Plan Performance Report for 2022



2023 年 6 月

全学点検・評価委員会

## 目次

|                                               |    |
|-----------------------------------------------|----|
| はじめに .....                                    | 1  |
| I 大学の概要 .....                                 | 2  |
| II 当事業年度の事業概要 .....                           | 6  |
| III 年次計画の達成状況 .....                           | 9  |
| [計画番号 1] 社会との共創—言語教育研究を通じた社会との共創 .....        | 9  |
| ○ 評価指標【①社会連携事業数】【②社会連携事業収入等割合】 .....          | 10 |
| [計画番号 2] 社会との共創—共生社会実現のための幅広い社会との共創 .....     | 11 |
| ○ 評価指標【①社会連携事業数】【②社会連携事業収入等割合】(再掲 p.10) ...   | 15 |
| [計画番号 3] 教育—教育成果の見える化 .....                   | 16 |
| ○ 評価指標【③企業調査・卒業生調査】 .....                     | 17 |
| [計画番号 4] 教育—学部教育の教育プログラム化 .....               | 18 |
| ○ 評価指標【④大学満足度】 .....                          | 20 |
| [計画番号 5] 教育—大学間の共同教養教育の推進 .....               | 20 |
| ○ 評価指標【⑤オンライン共同教育授業数】 .....                   | 21 |
| [計画番号 6] 教育—高度な英語力養成のための教育整備 .....            | 21 |
| ○ 評価指標【⑥英語スピーキングテスト】【⑦CEFR C1 レベル学部生比率】 ..... | 22 |
| [計画番号 7] 教育—専門人材育成のための修士キャリア教育 .....          | 23 |
| ○ 評価指標【⑧専門領域就職割合】 .....                       | 24 |
| [計画番号 8] 教育—高度な知見をもつ博士キャリア支援 .....            | 24 |
| ○ 評価指標【⑨博士号取得率】【⑩博士出学者調査】 .....               | 26 |
| [計画番号 9] 教育—海外大学との連携教育 .....                  | 27 |
| ○ 評価指標【⑪現地渡航留学経験者数】【⑫DDP 学位取得者数】 .....        | 28 |
| [計画番号 10] 教育—世界に広がるネットワークづくり .....            | 29 |
| ○ 評価指標【⑬正規留学生出身国数】【⑭世界に広がる同窓生コミュニティ】 .....    | 30 |
| [計画番号 11] 教育—豊かな学生生活実現のための支援 .....            | 31 |
| ○ 評価指標【⑮学生連携支援ネットワーク】 .....                   | 33 |
| [計画番号 12] 研究—人文社会研究の牽引 .....                  | 34 |
| ○ 評価指標【⑯研究業績数】【⑰科研費新規採択率・科研費保有数】 .....        | 37 |
| [計画番号 13] 研究—研究資源のデジタルアーカイブ化 .....            | 37 |
| ○ 評価指標【⑱デジタルアーカイブ件数】 .....                    | 38 |

|                                    |                             |    |
|------------------------------------|-----------------------------|----|
| [計画番号 14]                          | 研究—外国人研究者の研究参画の拡充.....      | 39 |
| ○ 評価指標【⑲外国籍教育研究者数】 .....           |                             | 40 |
| [計画番号 15]                          | 研究—四大学連合による分野融合の推進.....     | 40 |
| ○ 評価指標【⑳四大学連合による活動】 .....          |                             | 42 |
| [計画番号 16]                          | 研究—西東京三大学による文理融合の推進.....    | 44 |
| ○ 評価指標【㉑西東京三大学による活動】 .....         |                             | 45 |
| [計画番号 17]                          | 研究—イスラームに焦点化した共同研究の推進 ..... | 46 |
| ○ 評価指標【㉒AA 研成果論文件数】 .....          |                             | 47 |
| [計画番号 18]                          | 業務運営—透明性の高い法人運営の実現.....     | 47 |
| ○ 評価指標【㉓経営協議会委員・監事による意見反映】 .....   |                             | 48 |
| [計画番号 19]                          | 業務運営—環境や長寿命化を意識した施設整備 ..... | 49 |
| ○ 評価指標【㉔保有資産の利用状況・施設の外部貸出状況】 ..... |                             | 50 |
| [計画番号 20]                          | 業務運営—財政基盤の強化.....           | 51 |
| ○ 評価指標【㉕公開講座・施設利活用収入等割合】 .....     |                             | 52 |
| [計画番号 21]                          | 業務運営—自律的な点検・評価 .....        | 53 |
| ○ 評価指標「㉖点検・評価活動」【㉗IR 機能】 .....     |                             | 53 |
| [計画番号 22]                          | 業務運営—ステークホルダーとの対話.....      | 56 |
| ○ 評価指標【㉘ステークホルダーによる意見反映】 .....     |                             | 57 |
| [計画番号 23]                          | 業務運営—デジタル・キャンパスの実現.....     | 59 |
| ○ 評価指標【㉙DX 推進計画】 .....             |                             | 60 |

## はじめに

2022 年度から第 4 期中期目標・中期計画期間が始まりました。国立大学法人法の改正により、第 4 期中期目標・中期計画期間からは、これまで国立大学法人が毎年度文部科学省に提出していた年度計画及び業務実績報告書は廃止され、4 年目の中間評価と 6 年目（最終年度）の最終評価のみになりました。これにより、国立大学法人は、これまで以上に自律的で透明性の高い大学運営が求められることになりました。

そこで本学では、自律的な点検・評価を実現するため、「中長期的な目標に対し、年次レベルで達成すべき年次計画を策定し、その進捗を全学点検・評価委員会において毎年度 2 回程度点検・評価する。」と中期計画に定め、2022 年度から年次計画を策定しました。

2022 年度年次計画：

<http://www.tufs.ac.jp/documents/abouttufs/outline/plans/nenjiR4.pdf>

この報告書は、当該年次計画の実施状況を記載したものになります。

この報告書と従来の業務実績報告書との違いは、これまでの業務実績報告書が全学的な実施状況を記載していたのに対し、この報告書では取組を行った担当組織を明記した点にあります。従来の業務実績報告書は全学的な実施状況ゆえ、担当組織がはっきりしないという点がありました。一方、この報告書では、担当組織を明記することで、当該組織の具体的な取組状況を明確化することができ、当該組織がどのように社会に貢献しているかを見える化しました。

なお、2022 年度年次計画に記載していた「特に取り組む事業と課題」については、2023 年度年次計画から「中期計画ごとの年次計画」と一体化したため、この報告書では「中期計画ごとの年次計画」の達成状況に限定して記載しております。

本学は、年次計画とその達成状況を本学ホームページに公表していくことで、自律的で透明性の高い大学運営を行っていきます。

### ★この報告書に関連する第4期中期計画シンボルマーク★



透明性の高い  
法人運営の実現



自律的な点検・評価



ステークホルダーとの  
対話

## I 大学の概要

### (1) 現況（2022 年 5 月 1 日現在）

① 大学名

国立大学法人東京外国語大学

② 所在地

東京都府中市

③ 役員の状況

学長 林 佳世子（2019 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）

理事数 3 名

監事数 2 名（非常勤）

④ 学部等の構成

（学部）

言語文化学部

国際社会学部

国際日本学部

（研究科）

大学院総合国際学研究科

（附置研究所等）

アジア・アフリカ言語文化研究所 ※

※は、共同利用・共同研究拠点に認定された施設を示す。

⑤ 学生数及び教職員数

学生数

言語文化学部 1,630 名（17 名）

国際社会学部 1,654 名（31 名）

国際日本学部 322 名（126 名）

大学院総合国際学研究科 538 名（228 名）

教員数 246 名

職員数 135 名

※（ ）内は留学生数

## (2) 大学の基本的な目標等

東京外国語大学は、150年に及ぶその歴史を通じ、世界の言語・文化・社会を深く掘り下げ、研究によって得られた知見を社会に還元し、日本社会の国際化に寄与してきた。人材育成の分野では、学部や大学院の教育を通じ、日本と世界を結んで活躍する人材の育成に力をおき、戦前においては日本の近代化に、戦後においては日本の経済成長や国際的なプレゼンスの向上に貢献する多くの人材を輩出してきた。

しかし、21世紀の現在、本学が果たすべき役割には大きな変化が生じている。世界の一体化、価値観の多様化、それへの負の反応としての社会における分断や格差、差別やレイシズムの深刻化が同時に進行する現在、本学が教育・研究の対象とする世界に関する知見は、人々の共生に不可欠なものとなっているからである。本学の現在の使命は、地球社会における人々の共生に貢献することにある。すなわち、本学は、その研究により、文化の差異と共生の仕組みを明らかにし、その教育を通じ、寛容でインクルーシブな社会の実現に向けた課題解決に資する人材を育成し、さらに社会貢献を通じ、本学に期待される分野で異なる背景を持つ人々の共生に向けた方策の実装に力を尽くさなくてはならない。2022年から28年にかけての第4期中期目標・中期計画期間において、本学は、本学の教育研究が生み出す未来に向けた社会変革への活力を可視化・活性化し、大学をあげて、その社会での実装に努める。

以上の目標の達成のため、次の3つの分野で本学の機能強化に取り組む。

1. 社会との共創－本学の教育研究の成果を、共生に向けた諸問題の解決に資する次の活動に活用する。まず、社会における言語運用をめぐる問題解決に向けた活動を行う。言語教育のナショナルセンターとしての本学の機能を強化し、日本語・英語を含む多言語の習得度の判定や、デジタル化時代の言語教育の新たな手法を提案し、その社会実装を目指す。また、市民・自治体・NGO・教育機関・企業などと共に寛容でインクルーシブな社会の実現に向けた取組みを幅広く展開する。

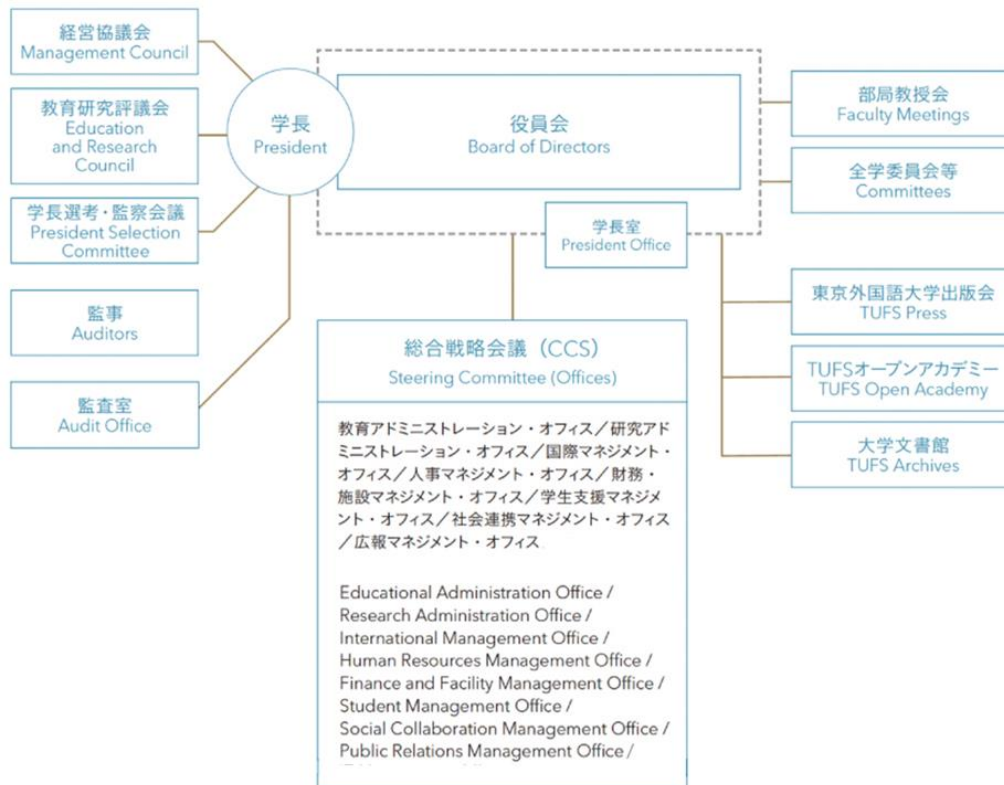
2. 教育の高度化－学士課程においては、学生が学べる内容、卒業までに身につく力を可視化した教育プログラムを整備するとともに、ディプロマサブリメント等により社会に対し学生が卒業までに身につけた共生に寄与する力（言語力・専門力・問題解決力など）を保証する。またDX化時代の教育の方向性を踏まえ、他大学との協働などにより多分野にわたる教養教育の充実を図る。大学院課程においては、引き続き優れた研究者を養成すると同時に、多言語多文化化する社会で求められる高度な専門的知識を備えた人材を養成する。

3. 高度で融合的な研究の推進－世界における多文化共生のメカニズムを解明する人文・社会科学の研究を牽引すると同時に、多分野の研究者が参加し問題解決を目的とした融合型研究プロジェクトを推進し、研究成果の社会実装を目指す。

このような大学の教育研究活動を支えるため、大学内外の多様な意見を大学経営に生かし、透明性・効率性に秀でた運営を実現する。その結果として、社会から本学への支持・支援を獲得し、国立大学としての本学の存在価値を高めることに結びつける。

### (3) 大学の機構図 (2022.4.1 現在)

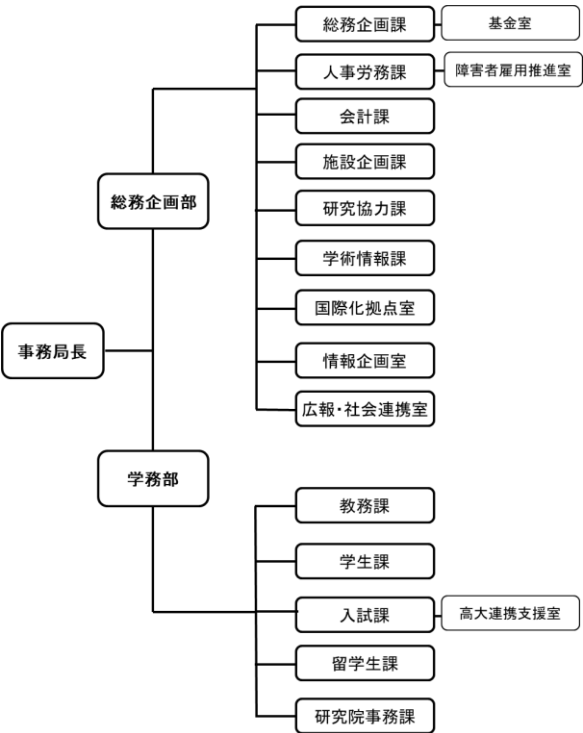
#### 運営組織



#### 教育研究組織

|                              |                                                                  |                                                    |                                                               |                                                        |
|------------------------------|------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 言語文化学部                       | School of Language and Culture Studies                           | ワールド・ランゲージ・センター                                    | World Language Center                                         |                                                        |
| 国際社会学部                       | School of International and Area Studies                         | Lingua テストセンター                                     | Lingua Test Center                                            |                                                        |
| 国際日本学部                       | School of Japan Studies                                          | 英語学習支援センター                                         | English Learning Center                                       |                                                        |
| 総合国際学研究所                     | Graduate School of Global Studies                                | CEFR-J推進室                                          | CEFR-J Office                                                 |                                                        |
| 博士前期課程<br>Master's Programs  | 世界言語社会専攻                                                         | Global Studies Program                             | 留学支援共同利用センター                                                  | TUFS Student Mobility Center                           |
|                              | 国際日本専攻                                                           | Japan Studies Program                              | 教育情報化支援センター                                                   | Multimedia and Computer-Aided Education Support Center |
|                              | 世界言語社会専攻                                                         | Global Studies Doctoral Program                    | 教育情報化支援室                                                      | Educational Information Support Office                 |
|                              | 国際日本専攻                                                           | Japan Studies Doctoral Program                     | オンライン教育支援室                                                    | Online Learning Support Team                           |
| 博士後期課程<br>Doctoral Programs  | 共同サステナビリティ研究専攻                                                   | Joint Doctoral Program for Sustainability Research | アカデミック・サポート・センター                                              | TUFS Academic Support Center                           |
|                              |                                                                  |                                                    | 国際メディア情報センター                                                  | TUFS Media Center                                      |
| 総合国際学研究院                     | Institute of Global Studies                                      | 語学研究所                                              | Institute of Language Research                                |                                                        |
| 国際日本学研究院                     | Institute of Japan Studies                                       | 総合文化研究所                                            | Institute of Transcultural Studies                            |                                                        |
| アジア・アフリカ言語文化研究所              | Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa | 海外事情研究所                                            | Institute for Global Area Studies                             |                                                        |
| 情報資源利用研究センター                 | Information Resources Center                                     | 国際関係研究所                                            | Institute of International Relations                          |                                                        |
| フィールドサイエンス研究企画センター           | Field Science Center                                             | 国際日本研究センター                                         | International Center for Japanese Studies                     |                                                        |
| TUFSフィールドサイエンスコモンズ (10月設置予定) | TUFS Field Science Commons                                       | 現代アフリカ地域研究センター                                     | African Studies Center                                        |                                                        |
| 世界言語社会教育センター                 | World Language Center                                            | 南アジア研究センター                                         | South Asia Studies Center                                     |                                                        |
| 留学生日本語教育センター                 | Japanese Language Center for International Students              | 学際研究共創センター                                         | Center for Transdisciplinary Research Networking and Dialogue |                                                        |
| 附属図書館                        | Library                                                          | 多言語多文化共生センター                                       | Center for Intercultural Studies                              |                                                        |
| 保健管理センター                     | Health Care Center                                               |                                                    |                                                               |                                                        |
| 総合情報コラボレーションセンター             | Information Collaboration Center                                 |                                                    |                                                               |                                                        |
| グローバル・キャリア・センター              | Global Career Center                                             |                                                    |                                                               |                                                        |

事務組織



## Ⅱ 当事業年度の事業概要

### （１）第４期中期目標・中期計画実現へ始動

2022年2月28日に文部科学大臣から第４期中期目標の提示、同年3月30日に第４期中期計画の認可を受け、2022年4月から第４期中期目標・中期計画を始動した。同目標・計画の確実な実現を図るため、計画別・組織別の年次計画を策定し、学内の教職員に対しては冊子として配布するとともに、本学のステークホルダーにも見ていただけるよう本学ウェブサイト上に公開した。さらに、全23の計画からなる中期計画のロゴマークを作成し各所で活用することによって、常に同計画が意識される仕組みづくりを行っている。

また、年次計画の進捗状況は、年2回本学の全学点検・評価委員会で確認し、PDCAサイクルを回すことにより、中期計画を確実に実施する。

### （２）新しい大学連携への取り組み

#### ① 四大学連合（東京医科歯科大学、東京工業大学、一橋大学、本学）

研究連携の枠組みとして設立した四大学連合ポストコロナ社会コンソーシアムにおいて、学際的、複合的な観点での研究協働に向けた議論を定期的（月2回ペース）に開催するとともに、一般社会に開かれたアウトリーチ企画として、新たな研究テーマを創発することを目指す異分野融合イベント（「大人のためのゼミ」）を実施（計4回）した。

#### ② 西東京三大学連携（東京農工大学、電気通信大学、本学）

2022年7月に三大学による更なる連携・協力を推進するため、基本協定書を再締結し、新たに、文理にわたる三大学の強みを融合した「研究」活動と、これらの研究成果を活かした「社会実装」活動にまで連携を拡大・充実させることを目的に、「西東京三大学共同サステナビリティ国際社会実装研究機構」を設置することとした。

#### ③ その他の国内連携

国際共修ネットワーク（ICL-Channels、幹事校：東北大学）、多文化共生教育コンソーシアム（宇都宮大学、弘前大学、長崎大学、本学）及び単位互換制度を通じて、オンラインで国内大学と連携した共同教育を行った。

また、共同教育に用いる学習管理システム「Moodle for Open Education」（通称：MOE）の運用を2022年4月から開始した。

### （３）新しい言語教育手法の開拓への取り組み

#### ① 日本語教育

教育情報化支援センターにオンライン教育支援室（OLST）を設置し、「大学の日本語」教材のオンライン教材化プロジェクトを推進した。

「オンライン日本語教育の提供を通じた大学海外拠点・オフィスの協働化プロジェクト」を立ち上げ、本学及び国内大学が保有する日本語学習教材情報をまとめたサイト「にじいろ」を開設した。

オープンアカデミーにおいてオンライン日本語教育を、朝と夜間に8レベルを春季に15講座（日本語講座12、教養講座3）、秋季に16講座（日本語講座13、教養講座3）を開講した。

## ② 英語教育

オンライン・オンデマンド型科目として、学生のペースで学修を進めることができるレベル別の英語科目オンライン・オンデマンド型英語 B1/B2 を、春・夏・秋・冬学期に各2クラス開講し、8コマの授業を125名が受講した。

## ③ 多言語教育

民間企業から語学研修（日本語・ロシア語）や語学レベルチェックテスト（7言語）の実施を受託し、実施した。

# （４）コロナ禍を超えた学生生活の回復への支援

## ① 学内学習環境の整備

研究講義棟4階と5階の多目的スペースを学生の自主学習スペースとして開放した。研究講義棟1階ガレリアに、個室型学習スペース「TUMS BOX」（通称：たふぼくす）を29個設置し、オンライン学習に対応するための環境整備を行った。

## ② 学生相談体制の拡張・整備

複数ある学生相談窓口を整理し学生相談窓口のWeb案内を刷新することにより、学生が自身の抱える悩みに合う相談室を選びやすくした。

また、学内での相談が難しい問題を抱える学生のため、2022年7月1日より外部業者と契約し、本学学生専用の「こころほっとライン」を日本語、英語で開設し、夜間での電話相談及びWeb相談を開始した。

# （５）ウクライナ支援・アフガニスタン支援

ウクライナ危機に対応し、自治体職員等対象のウクライナ語講座開講やウクライナ避難民への言語文化サポーターによる英語学習支援、ウクライナ・フェアの実施などのウクライナ支援を行った。

アフガニスタンからの避難者支援のため、渋谷区教育委員会と連携し、学生によるペルシア語及びダリ語による学習支援を行った。また、本学を修了したアフガニスタン人元留学生支援のため、2家族21名を本学で受入れ、滞在支援や日本語教育支援を行った。

# （６）「教育研究組織改革」への対応

本学は、2022年度の概算要求で獲得した運営費交付金の教育研究組織改革分として、①「言語運用能力可視化のための言語テスト開発拠点形成—Lingua テストセンターによる英語・日本語・多言語テスト

開発」、②「TUFS フィールドサイエンスコモンズの創設による文理協働型の先端的応用的臨地研究と共生の社会実践に向けた展開」、③「西東京三大学共同サステナビリティ 国際社会実装研究センター（仮称）の設立」が採択され、これを受けて、①Lingua テストセンターを4月、②TUFS フィールドサイエンスコモンズ（TUFiSCo）を10月、③学際研究共創センター（TReND センター）を4月に発足させた。

#### **（7）保育所の設置**

2022年9月、正和学園が本学キャンパス内に保育園を設置し、バイリンガル保育、体験・探究型保育を軸に、多文化多言語の保育園を展開することとなった。

### Ⅲ 年次計画の達成状況

○ 中期計画ごとに関連する年次計画の実施状況等を記載し、以下の区分で評価する。

Ⅳ：年次計画を上回って実施している。

Ⅲ：年次計画を十分に実施している。

Ⅱ：年次計画を十分には実施していない。

Ⅰ：年次計画を実施していない。



#### 【計画番号 1】 社会との共創—言語教育研究を通じた社会との共創

中期計画

(1) 多言語・多文化化する社会における言語活用の円滑化を目指し、言語研究・言語教育研究のナショナルセンターである本学の知見を社会に提供する。具体的には外国語の学習・教育の場で共有可能な標準的評価尺度(言語共通参照枠)の普及や英語・日本語の能力判定試験の開発などを進め、それにより、社会変革を先導するとともに、社会から本学に対する人的、財政的な支援を獲得する。

| 関連する年次計画                                                             | 関連する年次計画の実施状況等                                                                                                                                                                                                                                                             | 評価 |
|----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 【1-1】多言語判定テスト・システムなど、多言語用 CEFR-J を活用するプロジェクトを推進し、それにより、社会からの支援を獲得する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●Lingua【CEFR-J 部門】</li> <li>○民間企業からの言語能力テスト受注</li> <li>・民間企業から海外帰任社員用の言語能力テストを受注(2021年度から継続)</li> <li>・同テストは7言語、オンライン受験に対応</li> </ul>                                                                                               | Ⅲ  |
| 【1-2】英語については、CEFR-J Can-Do テストをはじめとするテスト開発を推進し、それにより社会からの支援を獲得する。    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●Lingua【テストセンター部門】</li> <li>○本学英語入試スピーキングテスト(BCT-S)</li> <li>・文部科学省「大学入試の好事例」に紹介</li> <li>○外部からの依頼</li> <li>・民間企業からテストの新規受注</li> <li>・静岡県総合教育センター「CAN-DO リストに基づくテスト作成力向上研修」への講師派遣</li> <li>・立川国際中等教育学校・附属小学校からのテスト設計依頼受諾</li> </ul> | Ⅲ  |
| 【1-3】オンライン日本語教育教材、および判定テスト開発を推進し、それにより社会からの支援を獲得する。                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●Lingua【オンライン日本語教育プロジェクト】</li> <li>○日本語教育教材に関する取組</li> <li>・オンデマンド教材開発(初級1・2レベル)</li> <li>・JV-Campus 日本語教育パッケージボックスの整備</li> <li>・オンライン日本語教育教材開発プロジェクト運営体制の整備</li> </ul>                                                             | Ⅲ  |

|                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |           |
|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| <p>【1-4】言語研究・言語教育研究の成果の公開・共有化を推進し、それにより社会からの支援を獲得する。</p> | <p>●語学研究所<br/>○言語研究成果の公開・共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TUFS 言語モジュールの補充・整備（発音モジュール、研究モジュール）</li> <li>・4 大学（東外大、東大、京大、九州大）合同「TUFS グローバル・スタディーズ学会 2022 年度（第三回）大会」（2023.2.11）</li> <li>・言語学動向研究会（LUNCHEON LINGUISTICS）13 回開催</li> <li>・定例研究会 14 回、講演会 3 回、研究会 1 回、セミナー1 回開催</li> <li>・『語研論集』特集データの全データベース化</li> <li>・「宮岡文庫」の目録整備・公開</li> </ul> <p>●アジア・アフリカ言語文化研究所（AA 研）<br/>○言語研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アゼルバイジャン語などを開講<br/>※ブリヤート語は諸事情により開講できず代替授業を用意</li> <li>・「言語研修オンライン教材」でムンダ語（2021）などを公開</li> </ul> | <p>IV</p> |
|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|

○ 評価指標【①社会連携事業数】【②社会連携事業収入等割合】

|      |                                                                                                                   |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | <p>①社会との共創のために、自治体、企業、教育機関、NPO 等の外部組織と協定・申し合わせなどを結んで取り組む事業数を 2020 年度末時点の 36 件から順次増やし、2027 年度末までに新たに 12 件実施する。</p> |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【①社会連携事業数】

| 基準値  | 実績          |      |      |      |      |      | 目標値          |
|------|-------------|------|------|------|------|------|--------------|
| 2020 | 2022        | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2027         |
| 36 件 | 新規 6 件<br>※ |      |      |      |      |      | 新規累計<br>12 件 |

※うち 2 件は 2021 年度開始

|      |                                                                                                                           |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | <p>②自己収入、社会連携関連受託事業等受入額の合計に占める、公開講座収入や著作物関連収入等の自己収入及び社会連携関連受託事業等受入額から得られる収入の割合を 2020 年度の 3.68%から 2027 年度までに 5%に増加させる。</p> |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【②社会連携事業収入等割合】

| 基準値   | 実績    |      |      |      |      |      | 目標値  |
|-------|-------|------|------|------|------|------|------|
| 2020  | 2022  | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2027 |
| 3.68% | 7.39% |      |      |      |      |      | 5 %  |



【計画番号 2】 社会との共創—共生社会実現のための幅広い社会との共創

|      |                                                                                                                                                             |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中期計画 | (2) 地球社会における寛容・包摂の実現を目指し、本学がもつ人文・社会科学系各分野の知見を活用して市民・自治体・NGO・企業などに対する教育事業やコンサルティング、外国人児童生徒を含む外国にルーツをもつ人々への支援など、幅広い社会連携事業を展開し、それにより、社会から本学に対する人的、財政的な支援を獲得する。 |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 関連する年次計画                                                | 関連する年次計画の実施状況等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 評価 |
|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 【2-1】「外国につながる子どもたち・人々」に関する社会連携事業を推進し、それにより社会からの支援を獲得する。 | <p>●多言語多文化共生センター</p> <p>○「外国につながる子どもたち・人々」に関する社会連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DLA（日本語）研修 4 回実施（浜松、岐阜、埼玉、岩手）</li> <li>・「令和 4 年度高等学校等における日本語能力評価に関する予備的調査研究事業（文部科学省）」採択</li> <li>・「国語学習 Can-do リスト」の検証調査実施（東京都教育庁）</li> <li>・日本語指導ハンドブック作成（東京都教育庁）</li> <li>・漢字アプリ「たふマルリン」開発（電通大と連携）</li> <li>・群馬県大泉町ポルトガル語劇</li> <li>・アフガニスタンからの退避家族英語学習支援</li> <li>・言語文化サポーター登録数約 410 名（昨年度比約 170 名増）</li> <li>・ベトナム語による日本語教育支援等</li> <li>・JSL（Japanese as a Second Language）高校社会科教材プラットフォームの作成</li> </ul>                                   | Ⅲ  |
| 【2-2】日本国内の多文化共生に関わる諸機関との連携事業を推進し、それにより社会からの支援を獲得する。     | <p>●総合文化研究所</p> <p>○多文化共生に関する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ「文学の移動／移動の文学」</li> <li>・講演会「ブラジルにおける日系人のハイブリッド・アイデンティティ」（駐日ブラジル大使館および水声社共催）</li> <li>・多文化教育研究プロジェクト 連続セミナー「多文化共生としての舞台芸術」</li> <li>・共催講演会「文化セミナー1, 2, 3」</li> <li>・ダンス・スコーレ 特別講座シンポジウム「身体のプロコラージュ」</li> <li>・『総合文化研究』第 26 号発行</li> </ul> <p>●多言語多文化共生センター</p> <p>○多文化共生に関わる諸機関との連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラジル独立 200 周年記念事業 オスカー・ナカザト氏講演会「ブラジルにおける日系人のハイブリッド・アイデンティティ」（駐日ブラジル大使館）</li> <li>・ジョゼ・サラマーゴ（ポルトガルの作家）生誕 100 周年事業</li> </ul> | Ⅲ  |

|                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |     |
|---------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
|                                                                                 | <p>展覧会におけるパネルの翻訳（ポルトガル大使館）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ブラジル大統領選（NHK ドキュメンタリー番組）」の上映会とトークイベント開催</li> <li>・立川国際中等教育学校（附属小学校）言語教育</li> <li>・在外公館派遣予定警察官向け研修への講師派遣（警察庁）</li> <li>・通訳人研修への講師派遣（東京地方検察庁）</li> <li>・日本語レッスンのサポート（山形県国際交流協会、NPO 法人日越ともゆき支援会）</li> </ul> <p>●言語文化学部</p> <p>○多文化共生に関する授業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「多文化」に関する科目を 12 科目開講</li> </ul> <p>●国際社会学部</p> <p>○多文化共生に関わる諸機関と連携した授業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタディツアー（山形県及び同県諸自治体）</li> <li>・就業体験（震災・洪水の被災地を学ぶ～福島でのボランティア型フィールドワーク&amp;インタビュー）」（非営利団体）</li> <li>・「国際協力論（国際開発と日本の開発協力経験）」（JICA）</li> <li>・「キャリアデザイン論（日本の国際ビジネスと JETRO の役割）」（JETRO）</li> <li>・「就業体験：インターンシップ」（民間企業）</li> </ul> |     |
| <p>【2-3】オープンアカデミー、履修証明を伴う養成講座、その他の講座を通じ、社会人等へ学び直しの機会を提供し、それにより社会からの支援を獲得する。</p> | <p>●社会連携 MO</p> <p>○社会人等へ学び直しの機会を提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022 年度司法通訳養成講座:ポルトガル語 10 名(8 名)、フィリピン（タガログ）語 4 名(3 名)、ミャンマー（ビルマ）語 6 名(4 名)受講。（）内は修了証授与者。</li> <li>・言語文化サポーター向け言語研修：8 月実施（英語 9 名、スペイン語 5 名、インドネシア語 1 名）各 4 回／90 分</li> </ul> <p>○民間企業へ研修提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社ファーストリテイリング<br/>日本語研修、日本文化研修</li> <li>・三井物産株式会社<br/>派遣後語学研修、派遣前語学研修</li> </ul> <p>○TUFSCinema 18 作品上映</p>                                                                                                                                                                                                                                                                          | IV  |
| <p>【2-4】中等教育機関と協働する事業を推進し、それにより社会からの支援を獲得する。</p>                                | <p>●高大連携支援室</p> <p>○高大連携協定校との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携協定締結校にアンケート送付</li> </ul> <p>●海外事情研究所</p> <p>○中等教育機関の教員を対象としたセミナー等</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | III |

|                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
|                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京外国語大学 夏期世界史セミナー ―世界史の最前線 XIV―</li> <li>・歴史総合研究会 2 回実施</li> <li>・『東京外国語大学夏期世界史セミナー―世界史の最前線― 14 年間の軌跡と展望 ①』 2023 (電子出版)</li> </ul> <p>●言語文化学部</p> <p>○高校生を対象とした事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験授業 5 回(地方実施 1 回を含む)</li> <li>・出前授業 10 回</li> <li>・キャンパス訪問 4 回</li> </ul> <p>●国際社会学部</p> <p>○高校との「歴史総合」に関する意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜国際高校</li> <li>・都立白鷗高等学校</li> <li>・渋谷教育学園幕張高等学校</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                   |   |
| <p>【2-5】企業・マスコミ・NGO 等向け、一般向け、若年層向けなど対象をしばったセミナーの開催や情報提供、出版(冊子・電子)等を行い、それにより社会からの支援を獲得する。</p> | <p>●国際メディア情報センター</p> <p>○「日本語で読む世界のメディア」プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本語で読む中東メディア」<br/>アラビア語記事 807 本、ペルシア語記事 313 本、トルコ語記事 701 本</li> <li>・「日本語で読む東南アジアのメディア」<br/>インドネシア語記事 33 本、ベトナム語記事 99 本、ビルマ語記事 164 本</li> <li>・「日本語で読む南アジアのメディア」<br/>ウルドゥー語記事 36 本、ベンガル語記事 31 本</li> <li>・関連授業の開講(インドネシア語、ベンガル語、ウルドゥー語、ベトナム語、アジアの言語)</li> </ul> <p>●海外事情研究所</p> <p>○セミナー等の開催、刊行物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・"Abandoned: The Stories of Japanese War Orphans in the Philippines and China" Film Screening and Discussion</li> <li>・合評会『ブラック・ライブズ・マターから学ぶ』</li> <li>・NHK 同時ドキュメント 群馬・ブラジル大統領選挙上映会とディスカッション</li> <li>・研究会 中央ヨーロッパ思想史を考えるために ―哲学と歴史研究の分野横断的対話―</li> <li>・Quadrante『クアドランテ』No.25 TUFs-IGAS, 2023 (研究所紀要・電子出版)</li> </ul> | Ⅲ |

|  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |  |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|  | <p>●国際関係研究所</p> <p>○講演会、研究会、刊行物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連続講演会シリーズ「現代世界と国際関係」2回</li> <li>・連続研究会「ウクライナ情勢を背景とする国際秩序の変容」6回</li> <li>・シンポジウム「ウクライナ情勢を背景とする国際秩序の変容」2回</li> <li>・連続研究会「新型コロナ感染拡大と国際社会：海外進出日系企業・団体と多文化共生」2回</li> <li>・東南アジア学会・第104回研究大会</li> <li>・『国際関係論叢』第11巻第1号発行</li> <li>・『国際関係論叢』第11巻第2号発行</li> <li>・年間活動報告書『現代世界の諸相 Vol.11-2021』</li> </ul> <p>●国際日本研究センター</p> <p>○講演会、イベント、研究会、刊行物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会「文学から考える『戦争と平和』——現代ロシア語文<br/>学の場合」（東京都人権啓発センター）</li> <li>・イベント「WATCH 2022 WINTER：For a Sustainable<br/>Future」開催（日本映像翻訳アカデミー株式会社）</li> <li>・国際日本語教育部門主催の研究会開催</li> <li>・『日本語・日本学研究』第13号刊行</li> </ul> <p>●現代アフリカ地域研究センター（ASC）</p> <p>○セミナー、刊行物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーナ大学との共同セミナー</li> <li>・ジャーナル『ASC-TUFS Working Papers Volume 3 (2023)』<br/>刊行</li> <li>・ASC セミナー11回実施</li> <li>・ステレンボッシュ大学日本センター開設シンポジウムへの協<br/>力</li> <li>・立川市生涯学習推進センター・市民協働課主催セミナーへの<br/>協力</li> <li>・府中市小学校保護者向け絵本読み聞かせ活動</li> </ul> <p>●南アジア研究センター</p> <p>○研究会、公開セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究会及びセミナーを計12回実施（共催含む。）</li> <li>・夏学期には本学オープンアカデミー枠を利用し、パキスタン<br/>をテーマとした講座を開設</li> <li>・TUFSCinema 南アジアの映画2本を上映</li> <li>・地方自治体からの要請を受け、在日南アジア系住民の生活支<br/>援の補助実施（冊子作成支援、通訳業務）</li> </ul> |  |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|

|                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |   |
|------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
|                                          | <p>●AA 研<br/>○刊行物<br/>・『フィールドプラス』28・29 号刊行</p> <p>○展示<br/>・写真展「マイノリティとして生きる—アメリカのムスリムとアイデンティティ」(2022.11.18-12.15)</p> <p>○イベント<br/>・人類学カフェ<br/>・文化/社会人類学研究セミナー<br/>・各種イベント(基幹研究人類学 HP)<br/>URL: <a href="https://anthropology.aa-ken.jp/activity/event/">https://anthropology.aa-ken.jp/activity/event/</a></p> <p>○「イスラーム信頼学」プロジェクトによる保育園との事業<br/>・シビルダイアログ企画「空と海がつなぐ世界」シビルダイアログ(2022.10.24-11.13)<br/>・企画展「学知の共創を考える:イスラーム信頼学・シビルダイアログキャラバンの試み」(2023.2.27-3.10)</p> <p>○教科書作成プロジェクト関連事業<br/>・ASC セミナー(2023.1.31, 2.1)<br/>・シンポジウム(2023.1.28-29)</p> |   |
| 【2-6】府中市等との地域連携事業を推進し、それにより社会からの支援を獲得する。 | <p>●大学文書館<br/>○府中市等との連携事業<br/>・企画展「大学文書館設置10周年」<br/>・「地域の公文書を活用した中学校社会科公民教材キット」開発<br/>・「地域の公文書を活用した公民教材」(三鷹市版)の作成・頒布</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | Ⅲ |

○ 評価指標【①社会連携事業数】【②社会連携事業収入等割合】(再掲 p.10)

|      |                                                                                                            |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ①社会との共創のために、自治体、企業、教育機関、NPO 等の外部組織と協定・申し合わせなどを結んで取り組む事業数を 2020 年度末時点の 36 件から順次増やし、2027 年度末までに新たに 12 件実施する。 |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【①社会連携事業数】

| 基準値  | 実績          |      |      |      |      |      | 目標値          |
|------|-------------|------|------|------|------|------|--------------|
| 2020 | 2022        | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2027         |
| 36 件 | 新規 6 件<br>※ |      |      |      |      |      | 新規累計<br>12 件 |

※うち2件は2021年度開始

|      |                                                                                                              |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ②自己収入、社会連携関連受託事業等受入額の合計に占める、公開講座収入や著作物関連収入等の自己収入及び社会連携関連受託事業等受入額から得られる収入の割合を2020年度の3.68%から2027年度までに5%に増加させる。 |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【②社会連携事業収入等割合】

| 基準値   | 実績    |      |      |      |      |      | 目標値  |
|-------|-------|------|------|------|------|------|------|
| 2020  | 2022  | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2027 |
| 3.68% | 7.39% |      |      |      |      |      | 5%   |



【計画番号 3】 教育—教育成果の見える化

|      |                                                                                                                                             |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中期計画 | (3) 社会のニーズに適切に応え、社会で活躍する人材の育成を目指し、オンライン上の学修記録管理システム「TUFs Record」により入学から卒業・修了に至る過程で身に付ける力を可視化するとともに、その力が社会のニーズにかなっているかの検証を不断に行い、教育の改善に結び付ける。 |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 関連する年次計画                     | 関連する年次計画の実施状況等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 評価 |
|------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 【3-1】教育に関するデータの整理・分析機能を強化する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●教育アドミニストレーション・オフィス（教育 AO） <ul style="list-style-type: none"> <li>○教育に関するアンケートの結果確認</li> <li>・アクティブ・ラーニング授業回（ALH）実施アンケート結果の概要の確認</li> <li>・授業評価アンケート（学部）結果の概要の確認</li> </ul> </li> <li>●TUFs アカデミック・サポート・センター（たふさぼ） <ul style="list-style-type: none"> <li>○教育に関するデータの整理・分析機能強化</li> <li>・大学院生を対象とした教育に関するデータの整理・分析機能を強化する仕組みについて検討</li> </ul> </li> <li>●全学点検・評価委員会 <ul style="list-style-type: none"> <li>○データ収集・分析機能等強化と見える化</li> <li>・全学点検・評価委員会規程を改正し、データの収集権限及び分析・提供機能を明記</li> <li>・教育白書 2022 を作成し、経年変化を可視化するため、志願者数等の推移をグラフで表示</li> <li>・IR サイトを開設し、学内に点在していたデータを当該サイト</li> </ul> </li> </ul> | Ⅲ  |

|                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |   |
|--------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
|                                                                    | に集約<br>URL: <a href="http://www.tufs.ac.jp/abouttufs/public_info/ir/">http://www.tufs.ac.jp/abouttufs/public_info/ir/</a>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |   |
| 【3-2】「TUFS Record」や「キャリア・パス・データベース」に集積された学修データの分析方法を検討し、実際の分析に生かす。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●教育 AO <ul style="list-style-type: none"> <li>○学修データの蓄積 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院博士前期課程で「TUFS Record」の導入決定</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>●たふさぼ <ul style="list-style-type: none"> <li>○学修データの分析方法検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度 TUFS Record に新たに投入された 2022 年度 CEFR- J の評価の分析結果について報告し、在学生の言語力の推移（多様であること）を改めて確認</li> <li>・入学時の TOEIC とその後の修学（特に専門力 GPA）の関連性等について、学部との意見交換会を実施</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>                                                                        | Ⅲ |
| 【3-3】修士版「TUFS Record」を新設するとともに、博士課程学生の研究成果・学修成果の可視化を推進する。          | <ul style="list-style-type: none"> <li>●総合国際学研究科 <ul style="list-style-type: none"> <li>○博士課程学生の学修研究成果の可視化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画運営会議の下に設置した大学院改編の WG で修士版「TUFS Record」について検討し、導入決定</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | Ⅲ |
| 【3-4】卒業生、及び企業向けアンケートを実施し、その結果を教育にフィードバックする。                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>●たふさぼ <ul style="list-style-type: none"> <li>○卒業生・修了生からの意見聴取 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 10 回たふさぼおしゃべり会「卒業生・修了生を囲む会」の実施および学期末のアンケートの実施</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>●グローバル・キャリア・センター（GCC） <ul style="list-style-type: none"> <li>○卒業生・修了生アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生・修了生アンケートを実施</li> <li>・新たな試みとして、3 年次編入学生とその他の入試による入学者の出口の比較調査実施</li> </ul> </li> <li>○企業アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022 年度不実施（前回は 2021 年度、次回は 2023 年度実施予定）</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> | Ⅲ |

○ 評価指標【③企業調査・卒業生調査】

|      |                                                                                                     |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ③卒業生への評価・期待に関する企業調査・卒業生調査の体制を 2022 年度中に整え、定期的に調査を実施し、その結果を教育の改善に結び付けた事例を確認することで、社会で活躍する人材の育成の進捗を計る。 |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|

【③企業調査（企業アンケート）】

| 年度   | 取組状況  |
|------|-------|
| 2022 | ●実施状況 |

|  |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022 年度企業アンケート不実施</li> <li>・次回は 2023 年度実施予定</li> </ul> <p>(前回) 2021 年度企業アンケート<br/> 【実施期間】2022 年 2 月 8 日～4 月 30 日<br/> 【回答依頼先企業・機関数】123 社 (過去 5 年就職者数上位企業)<br/> 【回答数】26 企業・機関 (回答率: 21.1%)</p> <p>●活用状況<br/> ・2022 年度は改善策を検討。2023 年度に改善策を実施予定。</p> |
|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 【③卒業生調査 (OB・OG アンケート)】

| 年度   | 取組状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2022 | <p>●実施状況</p> <p>○2022 年度実施 OB・OG アンケート【卒業生 (1 年目) 対象】実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に在学中に経験した又は身につけたことが職業に役立っているかについて調査するもの</li> <li>・実施期間: 2022 年 12 月 1 日～2023 年 1 月 31 日</li> <li>・回答数: 89 名/937 名 (回答率 9.5%)</li> </ul> <p>○2022 年度実施 OB・OG アンケート【卒業生 (3・5 年目) 対象】実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に在学中に経験した又は身につけたことが職業に役立っているかについて調査するもの</li> <li>・実施期間: 2022 年 8 月 3 日～10 月 12 日</li> <li>・回答数: 180 名/1,346 名 (回答率 13.4%)</li> </ul> <p>●活用状況<br/> ・2022 年度は改善策を検討。2023 年度に改善策を実施予定。</p> |



### 【計画番号 4】 教育—学部教育の教育プログラム化

|      |                                                                                                              |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中期計画 | (4) 世界や日本における共生社会の実現に資する専門的知見と幅広い視野を持つ人材の確実な育成を目指し、各学部の特性と強みを生かし、学生が学べる内容、卒業までに身につく力を明確にした学部教育プログラムの整備を推進する。 |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 関連する年次計画                                                      | 関連する年次計画の実施状況等                                                                                                                                              | 評価 |
|---------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 【4-1】「多文化共生教育プログラム」を 1～4 年次一貫プログラムとして構想するほか、学部教育プログラムの在り方について | <p>●教育 AO</p> <p>○「多文化共生教育プログラム」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部の授業科目のうち、「多文化共生に関する科目」群は、次のとおりまとめられているものの、学部教育プログラムとしては引き続き検討が必要</li> </ul> | Ⅱ  |

|                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| の検討を開始する。                                                                                                                      | 2022 年度授業時間割検索ガイドブック (P51、P82)<br><a href="http://www.tufs.ac.jp/documents/student/lesson_course/jikanwari2022guide.pdf">http://www.tufs.ac.jp/documents/student/lesson_course/jikanwari2022guide.pdf</a>                                                                                                                                                                                                                                                        |   |
| 【4-2】「技術・情報と人文<br>学との融合」教育プログラ<br>ム(言語文化学部)、「地域<br>と専門分野の交差する」教<br>育プログラム(国際社会学<br>部)、「日本語教育」教育プ<br>ログラム(国際日本学部)<br>の可能性を検討する。 | <p>●言語文化学部</p> <p>○「技術・情報と人文学との融合」教育プログラム</p> <p>・言語文化学部独自の「技術・情報と人文学との融合」教育プログラムの素地になる、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」の認定申請をするための議論を実施</p> <p>●国際社会学部</p> <p>○「地域と専門分野の交差する」教育プログラム</p> <p>・2021 年度卒業予定者満足度調査に関する部局での分析</p> <p>・学部内のコース単位で、導入・概論科目編成の詳細な見直しを実施</p> <p>・学生向けの学修用冊子『国際社会学部の歩き方 2023』において、入学から卒業までの学年別履修モデルの充実を実現</p> <p>●国際日本学部</p> <p>○「日本語教育」教育プログラム</p> <p>・教員の懇談会を重ね、国家資格としての「登録日本語教員」の養成を視野に入れた日本語教師養成プログラムの整備について教員間の理解を深化</p> | Ⅲ |
| 【4-3】「たふ DS」(TUFS<br>データサイエンス教育プ<br>ログラム)の充実を図る。                                                                               | <p>●教育 AO</p> <p>○「たふ DS」(TUFS データサイエンス教育プログラム)</p> <p>・文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」に申請に向けた検討を実施</p> <p>・授業評価アンケート結果を踏まえつつ、2022 年度の自己点検・評価を実施</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | Ⅲ |
| 【4-4】学部キャリアプロ<br>グラムの整備を検討する。                                                                                                  | <p>●言語文化学部</p> <p>○学部キャリアプログラム検討</p> <p>・「キャリア日本語 2」や「インターンシップ 4」といった、日本語や英語の語学教育とキャリア教育を兼ね備えた実践的な授業を開講</p> <p>●国際社会学部</p> <p>○学部キャリアプログラム検討</p> <p>・2021 年度卒業予定者満足度調査に関する部局での分析</p> <p>・学部内のコース単位で、導入・概論科目編成の詳細な見直しを実施</p> <p>・国連スタディツアーでは「TUFS グローバル・コミュニティ会合」を実施するなど、学外機関との連携によるキャリアプロ</p>                                                                                                                                                                    | Ⅲ |

|  |                                                                                                                                                                            |  |
|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|  | <p>ラムの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●国際日本学部</li> <li>○学部キャリアプログラム検討</li> <li>・教員の懇談会を重ね、国家資格としての「登録日本語教員」の養成を視野に入れた日本語教師養成プログラムの整備について教員間の理解を深化</li> </ul> |  |
|--|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|

○ 評価指標【④大学満足度】

|      |                                                                                                                 |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ④学生の教育への満足度として、学部4年生（卒業予定者）を対象に実施している「大学満足度調査」の設問「大学教育の総合評価」に対する「満足」あるいは「少し満足」と回答した数の割合を、2020年度の78%から80%に増加させる。 |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【④大学満足度】

| 基準値  | 実績    |      |      |      |      |      | 目標値  |
|------|-------|------|------|------|------|------|------|
| 2020 | 2022  | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2027 |
| 78%  | 80.9% |      |      |      |      |      | 80%  |



【計画番号 5】 教育—大学間の共同教養教育の推進

|      |                                                                                |
|------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 中期計画 | (5) デジタル化時代の教育革新を先導し、単独の大学では成し得ない多様な教養教育の展開を目指し、大学間の連携によりオンラインを用いた共同教養教育を推進する。 |
|------|--------------------------------------------------------------------------------|

| 関連する年次計画                                                                                                                                   | 関連する年次計画の実施状況等                                                                                                                                                                                               | 評価 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 【5-1】多文化共生教育コンソーシアム（弘前大、宇都宮大、長崎大、東外大）、ICL（国際共修）コンソーシアム（東北大、福島大、東外大、信州大、大阪大、神戸大）、東京医科歯科大学との共同教育をオンラインで実施し、その成果を検証するとともに、翌年度以降の拡充に向け、検討を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●教育 AO</li> <li>○他大学との共同教育</li> <li>・多文化共生教育コンソーシアム：1科目</li> <li>・ICL（国際共修）コンソーシアム：3科目（春学期1科目、秋学期2科目）</li> <li>・東京医科歯科大学との共同教育：8科目（春学期4科目、秋学期4科目）【2022年度初】</li> </ul> | Ⅲ  |

|                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                        |   |
|---------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 【5-2】学外からアクセス可能な新 LMS を運用し、その成果を検証する。                                           | <p>●教育 AO</p> <p>○学外からアクセス可能な新 LMS (Moodle for Open Education: MOE) の運用</p> <p>&lt;2022 年度の運用実績&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン授業 ベトナム語 1 (西南学院大学)</li> <li>・オンライン授業 ベトナム語 2 (西南学院大学)</li> </ul> | Ⅱ |
| 【5-3】西東京三大学の協働基礎ゼミ、多摩地区国立大学 5 大学（農工大・電通大・東外大・一橋大・学芸大）の「標準化」講義を対面で実施し、その成果を検証する。 | <p>●教育 AO</p> <p>○西東京三大学との共同教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協働基礎ゼミ</li> <li>1 科目開講（本学開講分）<br/>受講者 15 名（うち本学学生 4 名）</li> <li>・標準化講義</li> <li>1 科目開講（電通大開講）<br/>受講者 87 名（うち本学学生 0 名）</li> </ul>           | Ⅲ |

#### ○ 評価指標【⑤オンライン共同教育授業数】

|      |                                                                                |
|------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ⑤大学間連携によるオンラインを用いた共同教養教育を実施し、開講授業数を 2021 年度の 1 科目から順次増やし、2027 年度までに 22 科目開講する。 |
|------|--------------------------------------------------------------------------------|

#### 【⑤オンライン共同教育授業数】

| 基準値  | 実績   |      |      |      |      |      | 目標値   |
|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2027  |
| 1 科目 | 9 科目 |      |      |      |      |      | 22 科目 |



#### 【計画番号 6】 教育—高度な英語力養成のための教育整備

|      |                                                                                                  |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中期計画 | （6）高校での英語教育の成果の総合的な評価と卒業後に社会で必要とされる英語力の涵養を目指し、本学入試における 4 技能試験、および学士課程における個人に最適化した英語教育プログラムを実施する。 |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|

|          |                |    |
|----------|----------------|----|
| 関連する年次計画 | 関連する年次計画の実施状況等 | 評価 |
|----------|----------------|----|

|                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |   |
|-----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 【6-1】英語外部試験（TOEIC-IP）を運用・実施するとともに、上位学生を対象とした英語力強化講習および下位学生を対象とした英語の補習を実施する。 | <p>●English Learning Center（ELC）</p> <p>○英語学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインにて1年生及び3年生を対象にTOEIC-IPテスト（Listening &amp; Reading）を実施</li> <li>・英語学習に苦手意識を持っている学生対象に英語ワークショップ（補習）開催</li> <li>・外部講師を招き、TOEIC対策講習、IELTS対策講習、ディスカッション講習を開催</li> <li>・卒業論文題目英訳チェックを実施（計235名）</li> </ul>                                                      | Ⅲ |
| 【6-2】CEFR-Jに準拠した自律学習支援用の教材・タスクの開発を進める。                                      | <p>●ELC</p> <p>○英語の自立学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CEFRレベルに応じたSpeaking sessionを実施（春学期：1,643名、秋学期1,360名参加）</li> <li>・より英語力を高めたい学生向けにC1レベルを目指すSpeaking sessionを開催</li> <li>・Discussion skillsの練習に特化したSpeaking sessionを新規開設</li> </ul>                                                                                                    | Ⅲ |
| 【6-3】BCT-Sを実施・検証を行うとともに、同テストと紐づけされたスピーキング・スキルの自律学習支援用の教材・タスクを開発する。          | <p>●ELC</p> <p>○英語スピーキングテスト（BCT-S）実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度入学選抜に向けて、英語スピーキングテスト開発の継続、および円滑な運営のための実施マニュアルを改訂</li> <li>・英語スピーキングテストのスコアをCEFR-Jと紐づけるための検証を続け、その結果をELCでの自律学習支援用教材・タスク開発に反映</li> </ul> <p>●Lingua【テストセンター部門】</p> <p>○英語スピーキングテスト（BCT-S）作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学学部入試におけるBCT-S作問</li> </ul> | Ⅲ |
| 【6-4】学生の個別ニーズに応じた英語学習のカスタマイズを行う「Myコース」の実現に向けた作業を行う。                         | <p>●グローバル人材育成プログラム（GLIP）</p> <p>○「Myコース」の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Myコース実現に向けた取り組みとして、学生向けのGLIP履修ガイドに、英語科目の履修パターンについて例示し、ガイドラインを掲載</li> </ul>                                                                                                                                                                                        | Ⅲ |
| 【6-5】オンデマンド・オンライン型の英語科目を増やす。                                                | <p>●GLIP</p> <p>○オンデマンド・オンライン型英語科目増加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度のカリキュラムにおいて、オンライン・オンデマンド型の英語科目を4コマ増加させることを決定</li> <li>・科目を再度履修することを希望する学生が一定数いたため、既存科目と異なる教材を使用したクラスを2レベル（上級・中級）、春・秋学期に新たに開講</li> </ul>                                                                                                                            | Ⅲ |

○ 評価指標【⑥英語スピーキングテスト】【⑦CEFR C1レベル学部生比率】

|      |                                           |
|------|-------------------------------------------|
| 評価指標 | ⑥本学入試において、改良を図りつつ着実に全学部で英語スピーキングテストを実施する。 |
|------|-------------------------------------------|

#### 【⑥英語スピーキングテスト】

| 年度   | 取組状況                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2022 | <p>●実施状況</p> <p>2023 年度入試受験者数</p> <p>言語文化学部 604 名</p> <p>国際社会学部 421 名</p> <p>国際日本学部 55 名</p> <p>計 1,080 名</p> <p>●改善状況</p> <p>○運用面での改善（2 件）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験者の回答音声を波形表示し、受験者側で録音状況の確認を可能化</li> <li>・ヘッドセットの出荷前の検品を強化し、音声トラブル減少</li> </ul> |

|      |                                                                      |
|------|----------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ⑦CEFR で C1 レベル以上の英語力をもつ学部生の比率を、2020 年度の 6.7%から 2027 年度までに 10%に増加させる。 |
|------|----------------------------------------------------------------------|

#### 【⑦CEFR C1 レベル学部生比率】

| 基準値  | 実績    |      |      |      |      |      | 目標値  |
|------|-------|------|------|------|------|------|------|
| 2020 | 2022  | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2027 |
| 6.7% | 6.81% |      |      |      |      |      | 10%  |



#### 【計画番号 7】 教育—専門人材育成のための修士キャリア教育

|      |                                                                                                                                                    |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中期計画 | （7）修士の水準の高度な知見をもった社会人の育成を目指し、キャリアにつながる教育プログラムや就職支援を実施することで、修了後の進路につなげる。特に、英語教育、日本語教育、通訳・翻訳分野などの専門性を保証する、本学独自の専門領域単位修得証明制度を充実させ、多文化共生に必要な専門人材を育成する。 |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 関連する年次計画                                    | 関連する年次計画の実施状況等                                                               | 評価 |
|---------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|----|
| 【7-1】専門領域単位修得証明制度、及び博士前期課程のキャリアプログラムの改善を図る。 | <p>●総合国際学研究科</p> <p>○博士前期課程のキャリアプログラム</p> <p>・研究科企画運営会議でキャリアプログラムの改編方針決定</p> | Ⅲ  |

|                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |    |
|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 【7-2】修士課程学生向けの就職情報提供や学内セミナーの充実をはかる。 | <p>●GCC</p> <p>○就職支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年3月実施企業合同説明会への参加呼びかけを行い、20名の大学院生が参加</li> <li>・キャリア・アドバイザーによるキャリア相談を2023年2月時点で延べ143名利用（前年度97名）</li> <li>・修了者における就職者数は、2021年度45名（全体の35.4%）から2022年度48名（全体の38.1%）に上昇</li> </ul> <p>●総合国際学研究科</p> <p>○博士前期課程のキャリア支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究科企画運営会議において、博士前期課程修了生アンケートの集計結果をもとに博士前期課程学生に対するキャリア支援について検討</li> </ul> | IV |
|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|

○ 評価指標【⑧専門領域就職割合】

|      |                                                                                |
|------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ⑧専門領域単位修得証明制度に申請し修了した者の、当該専門領域への就職の割合を2017年度～2020年度の46.5%から2027年度までに65%に増加させる。 |
|------|--------------------------------------------------------------------------------|

【⑧専門領域就職割合】

| 基準値          | 実績   |      |      |      |      |      | 目標値  |
|--------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 2017-2020 平均 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2027 |
| 46.5%        | 40%  |      |      |      |      |      | 65%  |



【計画番号8】 教育—高度な知見をもつ博士キャリア支援

|      |                                                                                                              |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中期計画 | （8）人文・社会科学諸分野で博士の水準の高度な知見をもった社会人の育成を目指し、フェローシップ制度の活用等により、博士号取得の迅速化と博士課程修了者への多様なキャリアパスの開拓を進め、有為な博士人材を社会に送り出す。 |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|          |                |    |
|----------|----------------|----|
| 関連する年次計画 | 関連する年次計画の実施状況等 | 評価 |
|----------|----------------|----|

|                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |            |
|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| <p>【8-1】博士の標準修業年限内修了者の増加のため、博士論文提出までのプロセスの改善を図る。また、博士プログラムにおいて、広い研究観、キャリア観を育成する。</p> | <p>●博士課程支援の MIRAI プログラム<br/>○学会等への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TUFS グローバル・スタディーズ学会において、7 月 29 日（金）に博論進捗報告会（自主勉強会）を実施（参加者は学生 7 名、オブザーバーとして博士号取得者 2 名）</li> <li>・同会自主企画として、9 月 30 日（金）に「2022 博論執筆シンポジウム」を開催（参加者は 23 名）。</li> <li>・博士人材育成コンソーシアム「CCDP（幹事校：北海道大学）」へ参加</li> <li>・研究インターンシップコンソーシアム「C-ENGINE」へ参加</li> </ul> <p>●総合国際学研究科<br/>○教育体制改革検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究科企画運営会議で、研究科の教育体制改革について検討</li> <li>・特に「研究者養成・従来型」と「研究者・職業人養成 5 年計画」に分類し、博士前期課程と後期課程を接続した教育体制の在り方について検討実施</li> </ul> | <p>IV</p>  |
| <p>【8-2】就職につながる教育指導に向けて AGS-TUFS の体制を強化し、学生の参加を促進する。</p>                             | <p>●総合国際学研究科<br/>○TUFS グローバル・スタディーズ学会 2022 年度（第 3 回）大会（AGS-TUFS 大会）実施（2023.2.11）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者は以下のとおり</li> </ul> <p>言語学パネルセッション：50<br/>分科会 1 言語学：12<br/>分科会 2 現代社会：22<br/>分科会 3 教育：18<br/>分科会 4 文学・思想：20</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <p>III</p> |
| <p>【8-3】博士後期課程の修了者アンケートと追加的な調査を実施し、修了者の現状把握をする。</p>                                  | <p>●総合国際学研究科<br/>○博士後期課程出学者の進路追跡調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究科企画運営会議で、博士後期課程出学者キャリアパス教育・進路に関する調査結果について検討</li> <li>・同会議で、2022 年度・2017 年度出学者を対象とした進路追跡調査の実施決定</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | <p>III</p> |
| <p>【8-4】人文・社会系の分野での博士号取得者への社会的ニーズについて調査を行い、本学の博士教育に還元する。</p>                         | <p>●総合国際学研究科<br/>○博士後期学生の社会的ニーズ調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2021 年度・2018 年度博士後期課程出学者を対象としたキャリアパス教育に関するアンケート調査をもとに、修了者の進路と勤務状況、教育職とその他の勤務先の可能性と条件、キャリア教育の必要性等について検討</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | <p>III</p> |

|                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |    |
|----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 【8-5】MIRAI フェローシップを実施し、フェローシップ生の修了後の就職につなげる。 | <p>●博士課程支援の MIRAI プログラム</p> <p>○プログラム等への参加促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ MIRAI ゼミ「自身の研究と社会とのつながり」(オリエンテーション・ゼミ合計 11 回)</li> <li>・ 研究インターンシップに係るコンソーシアム「C-ENGINE」へ入会</li> <li>・ MIRAI スタディツアー 国立民族学博物館 (MIRAI 生 8 名、本学博士前期課程生 12 名、本学教員 1 名参加) (2022.11.18)</li> <li>・ 北海道大学フェローシップ生との事前交流会 (2022.12.9)</li> <li>・ 同大学フェローシップと MIRAI の共催にて「博士学生のための異分野交流会」(MIRAI 生 5 名参加) (2022.12.10-12.11)</li> <li>・ 大阪大学超域プログラム実施キャリアイベント (MIRAI 生 5 名参加) (2023.1.20)</li> <li>・ 同イベント後、両大学の交流会実施</li> </ul> | IV |
|----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|

○ 評価指標【⑨博士号取得率】【⑩博士出学者調査】

|      |                                                |
|------|------------------------------------------------|
| 評価指標 | ⑨博士号の取得率を 2020 年度の 53%から 2027 年度までに 60%に向上させる。 |
|------|------------------------------------------------|

【⑨博士号取得率】

| 基準値  | 実績    |      |      |      |      |      | 目標値  |
|------|-------|------|------|------|------|------|------|
| 2020 | 2022  | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2027 |
| 53%  | 46.7% |      |      |      |      |      | 60%  |

|      |                                                                                                                    |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ⑩博士課程学生の修了等後のキャリアの掌握のためのシステムを 2022 年度中に構築し、キャリアの分析から本学博士課程の教育プログラムの改善につながった事例を確認することで、博士の水準の高度な知見をもった社会人の育成の進捗を計る。 |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【⑩博士出学者調査】

| 年度   | 取組状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2022 | <p>●博士後期課程におけるキャリアパス教育アンケート実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施期間：2022 年 3 月 23 日～6 月 14 日</li> <li>・ 調査対象：2021 年度及び 2018 年度本学博士後期課程出学者</li> <li>・ 回答数：39 名/63 名 (回答率 61.9%)</li> </ul> <p>●活用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2022 年度は改善策を検討。2023 年度に改善策を実施予定。</li> </ul> |



【計画番号 9】 教育—海外大学との連携教育

|      |                                                                                                |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中期計画 | (9) 国際感覚をもった人材の養成を目指し、長期・短期の留学プログラムや、オンラインを活用した海外大学との国際連携教育を実施するとともに、学部・大学院にダブルディグリーコースを増加させる。 |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 関連する年次計画                                       | 関連する年次計画の実施状況等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 評価  |
|------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 【9-1】 学期中に実施する協定校などとの国際連携教育の拡充を図り、実施科目数を増加させる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●国際マネジメント・オフィス（国際 MO）</li> <li>○国際連携教育               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Joint Education Program 計 66 件実施（内訳）協定校派遣型 8 件、遠隔講義型 18 件、研究指導型 4 件、教員招へい型 36 件</li> <li>・実渡航によるスタディツアーを夏学期 2 件、冬学期 5 件開催</li> <li>・マヒドン大学（タイ）より実渡航による教員招へいの授業を実現</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                      | IV  |
| 【9-2】 年間の現地渡航を行う留学経験者数の増加を図る。                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●国際 MO</li> <li>○2022 年度の留学経験者数               <ul style="list-style-type: none"> <li>短期留学：735 名（うち大学院生 14 名）</li> <li>長期留学：731 名（うち大学院生 35 名）</li> <li>合計：1,466 名（うち大学院生 49 名）</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | IV  |
| 【9-3】 協定校などと連携したオンラインプログラムの充実、増加を図る。           | <ul style="list-style-type: none"> <li>●国際 MO</li> <li>○オンラインプログラムの充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン留学の運用の検討</li> </ul> </li> <li>●言語文化学部</li> <li>○協定校と連携した授業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「イベリア・ラテンアメリカ文化研究 3」（リオ・デ・ジャネイロ州立大学（ブラジル））</li> <li>・「中央ヨーロッパ文化研究」（リュブリャナ大学（スロベニア））</li> </ul> </li> <li>●国際日本学部</li> <li>○「大学の世界展開力強化事業（COIL）」の一環としてのオンライン共同授業（COIL 型授業）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「異分野横断演習」</li> <li>・「日本史・社会概論」</li> <li>・「日本社会演習 8」</li> <li>・「日本政治・経済 2」</li> </ul> </li> </ul> | III |

|                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |   |
|----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 【9-4】学部・大学院のダブルディグリー・プログラム（DDP）の拡充を図る。 | <p>●教育 AO</p> <p>○DDP 学位取得状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際日本学部とセントラル・ランカシャー大学（UCLan, 英国）DDP<br/>2021 年度派遣学生 1 名が先方大学でのプログラムを修了し、2022 年 6 月帰国</li> <li>・大学院博士前期課程 DDP「公共圏における歴史(HIPS)」<br/>2022 年 9 月に 8 名が修了</li> </ul> <p>●国際 MO</p> <p>○DDP 協定進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022 年 12 月に梨花女子大学（韓国）との DDP 協定締結</li> </ul> <p>○広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DDP 周知イベント、説明会等を複数回実施</li> </ul> | Ⅲ |
| 【9-5】大学院のジョイントディグリー・プログラム（JDP）を検討する。   | <p>●教育 AO</p> <p>○JDP 協定進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国連平和大学との DDP を引き続き検討</li> <li>・JDP は、DDP の実績を積んだ後に検討</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | Ⅱ |
| 【9-6】派遣留学前後の支援や、留学中の安全・健康支援体制の充実を図る。   | <p>●国際 MO</p> <p>○安全管理・健康管理説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「基礎リテラシー」において、『海外渡航におけるリスク管理・危機管理』と題して講義を実施</li> <li>・ショートビジット参加者に対しては、渡航前オリエンテーション（安全管理・健康管理）の実施</li> <li>・TUFS Moodle 上に、危機管理関連のコンテンツ（動画、プレゼン資料等）を掲載</li> <li>・渡航前に精神的・身体的疾患の既往症がある場合は、留学危機管理サービス（OSSMA）加入を求める体制を整備</li> <li>・「ただいま海外留学中」システムのデータを利用して現地渡航者の把握・安否確認の連絡を迅速に実施</li> </ul>                                                                                  | Ⅲ |

○ 評価指標【⑪現地渡航留学経験者数】【⑫DDP 学位取得者数】

|      |                                                                              |
|------|------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ⑪年間の現地渡航を行う留学経験者数を 2027 年度までに学部在籍者数のおおよそ 2 学年分に相当する 1,600 名に増加させる。（意欲的な評価指標） |
|------|------------------------------------------------------------------------------|

【⑪現地渡航留学経験者数（学部生）】

| 基準値   | 実績      |      |      |      |      |      | 目標値     |
|-------|---------|------|------|------|------|------|---------|
| 2020  | 2022    | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2027    |
| 238 名 | 1,417 名 |      |      |      |      |      | 1,600 名 |

|      |                                                                            |
|------|----------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ⑩海外大学とのダブルディグリー・プログラムでの学位取得者の数を 2020 年度までの 1 名から 2027 年度までに延べ 120 名に増加させる。 |
|------|----------------------------------------------------------------------------|

【⑪DDP 学位取得者数】

| 基準値  | 実績         |      |      |      |      |      | 目標値         |
|------|------------|------|------|------|------|------|-------------|
| 2020 | 2022       | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2027        |
| 1 名  | 延べ<br>11 名 |      |      |      |      |      | 延べ<br>120 名 |



【計画番号 10】 教育—世界に広がるネットワークづくり

|      |                                                                                                                                                      |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中期計画 | (10) 多様な背景を持つ学生間の交流により学生の視野や思考を広げることを目指し、海外の高校・大学との連携を拡充し、多くの国・地域から優秀な留学生の本学への入学を実現する。また、本学で学んだ留学生とのネットワークづくりを進め、世界に広がる同窓生コミュニティ（TUFS コミュニティ）を充実させる。 |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 関連する年次計画                                  | 関連する年次計画の実施状況等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 評価 |
|-------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 【10-1】学部・大学院入試における海外協定大学との連携制度の拡充を図る。     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●国際 MO               <ul style="list-style-type: none"> <li>○Global Japan Office(GJO)等を通じた入試広報</li> <li>・リオ・デ・ジャネイロ州立大学（ブラジル）に設置する GJO 経由で 3 名の志願者を獲得、全員が合格</li> <li>・GJO および協定校を通じて、リカレント教育や国際日本学部 3 年次編入募集等の広報実施</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                                                                                                              | Ⅲ  |
| 【10-2】正規留学生の出身国・地域数の実績の多様化のための広報体制を充実させる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●国際 MO               <ul style="list-style-type: none"> <li>○留学生に対する広報活動</li> <li>・正規生の出身国・地域数：65 か国・地域（2022 年 5 月現在）</li> <li>・Global Admissions Office(GAO)と連携し、日本留学海外拠点連携推進事業や JASSO 等の留学フェアに積極的に参加（2022 年度はオンラインの留学フェア 25 件、現地開催の留学フェア 6 件（資料参加））</li> <li>・本学主催留学フェアを 7 回開催（全体で 1 回、国際日本語学部で 2 回、Peace Conflict Studies (PCS) で 4 回）</li> <li>・留学生向けの英語による PR 動画を 12 月に作成し、留学フェアや Youtube で活用</li> <li>・国際日本学部の英語パンフレットを制作</li> </ul> </li> </ul> | Ⅳ  |
| 【10-3】大学のグローバル環境を整備する。                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>●国際 MO               <ul style="list-style-type: none"> <li>○アジア・アフリカ研究教育コンソーシアム(CAAS)</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | Ⅲ  |

|                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |   |
|---------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
|                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・CAAS 国際シンポジウム 5 大学 26 名が発表 (2022.10.26 韓国外国語大学(HUFS)主催)</li> <li>・CAAS コーディネーター会議 CAAS メンバー機関の全コーディネーター9 名が参加</li> </ul> <p>○協定書の電子化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「東京外国語大学における国際学術交流協定に関するガイドライン」を改定し、協定書の電子署名を容認</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |   |
| <p>【10-4】過去の留学生（正規生・非正規生）のリストをデータベース化するとともに、帰国留学生とのネットワークを構築する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●国際 MO <ul style="list-style-type: none"> <li>○同窓会組織（東京外語会）との協働</li> <li>・東京外語会海外支部と連携し、現地に長期留学中の学生との交流が実現 (2022.9・2022.12 バンコク支部、2023.2 フランクフルト支部)</li> <li>・約 2 年ぶりとなる TUFS グローバル・コミュニティ会合を開催 (2023.2.9 ニューヨーク) (現地留学中の学生を含め、教員・学生 32 名が参加)</li> <li>・外語会会報「海外留学記」に学生 10 名の手記を掲載</li> <li>・PCS で年 1 回の同窓会をオンラインにて定期開催 (参加者 34 名)</li> </ul> </li> <li>●アラムナイ・プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> <li>○データベース運用開始</li> <li>・2022 年 10 月から日本人卒業生データのデータベースへの取込みを開始</li> <li>・データベースの周知、登録申請者への ID、パスワードの発行、統合レポートの送付を実施</li> <li>・帰国留学生については、SNS を活用したネットワーク作りをベースに、継続性のあるコンテンツやイベントの企画を検討</li> </ul> </li> </ul> | Ⅲ |

○ 評価指標【⑬正規留学生出身国数】【⑭世界に広がる同窓生コミュニティ】

|      |                                                                            |
|------|----------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ⑬正規留学生の出身国・地域数の実績を 2020 年度の 56 か国・地域から順次増やし、2027 年度までに新たに 17 か国・地域から受け入れる。 |
|------|----------------------------------------------------------------------------|

【⑬正規留学生出身国数】

| 基準値      | 実績          |      |      |      |      |      | 目標値           |
|----------|-------------|------|------|------|------|------|---------------|
| 2020     | 2022        | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2027          |
| 56 か国・地域 | 新規 20 か国・地域 |      |      |      |      |      | 新規累計 17 か国・地域 |

|      |                                                                                    |
|------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ⑭帰国留学生を掌握するシステムを 2022 年度中に整備し、これを活用して展開された事業を確認することで、世界に広がる TUFS コミュニティの活性化の進捗を計る。 |
|------|------------------------------------------------------------------------------------|

【⑭世界に広がる同窓生コミュニティ】

| 年度   | 取組状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2022 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●同窓生を掌握する体制関係 <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報・社会連携課にアラムナイ事業を担当するアラムナイ係を新設（2022.12）</li> </ul> </li> <li>●同窓生を掌握するシステム関係 <ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓生を掌握するシステム（同窓会情報データベース）運用開始（2022.12）</li> </ul> </li> <li>●同窓会情報データベースによる帰国留学生掌握数 <ul style="list-style-type: none"> <li>・帰国留学生については SNS を活用したネットワーク作りを検討中</li> </ul> </li> <li>●同窓生が参加する事業関係 <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京外国語会海外支部との会合（バンコク、フランクフルト、ニューヨーク）</li> <li>・グローバル・コミュニティ会合（ニューヨーク）</li> <li>・大学院 PCS コース同窓会</li> </ul> </li> </ul> |



【計画番号 11】 教育—豊かな学生生活実現のための支援

|      |                                                                                                       |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中期計画 | （11）豊かな学生生活の実現を目指し、本学に設置される学生支援の基盤的組織である「学生支援プラットフォーム」の活動を充実させる。そのもとで、学生の心身のケア、障がい学生の支援、学習支援などの充実を図る。 |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 関連する年次計画                                                | 関連する年次計画の実施状況等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 評価 |
|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 【11-1】学生支援プラットフォーム発足に向けた準備を行い、連携体制を構築する。                | <ul style="list-style-type: none"> <li>●学生支援マネジメント・オフィス（学生支援 MO）</li> <li>○学生支援のための連携強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生相談室に、4 月から新たに 5 名の学生相談室員を配置、外部との契約により夜間の相談窓口を開設</li> <li>・外語会からの要望と支援により、100 円朝食を合計 700 食提供、12 月開催のフードパントリーで 200 セット配布</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                                                     | Ⅲ  |
| 【11-2】学生支援プラットフォームを構成する保健管理センター、学生相談室、GCC などの活動の充実をはかる。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●学生支援 MO</li> <li>○学生支援窓口の連携を強化ための体制見直し <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健管理センター <ul style="list-style-type: none"> <li>産業医をセンター長に任命</li> </ul> </li> <li>・学生相談室 <ul style="list-style-type: none"> <li>新たに 5 名の学生相談室員を配置、外部との契約により夜間の相談窓口を開設</li> </ul> </li> <li>・GCC <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア・アドバイザー 2 名（専任・非常勤各 1 名）の 2023</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> | Ⅲ  |

|                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |   |
|--------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
|                                                        | <p>年4月からの配置決定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の学生相談窓口を有機的に連携させるため、学生連携支援ネットワークを2023年4月に設置</li> <li>・同ネットワークに事務職員1名を配置決定</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |   |
| 【11-3】リスクグループを可能なかぎり学修相談につなげ、支援する。また大学院進学希望者への相談にこたえる。 | <p>●たふさぼ</p> <p>○意見収集と情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクある事案に対応するため個別事案検証会を立ち上げ、関係者間の定期的な情報共有体制を整備</li> <li>・大学院進学希望者向け「第9回たふさぼおしゃべり会：大学院進学」実施（参加者13名）（2023.2.14）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | Ⅲ |
| 【11-4】他大学で先行する支援事例についてヒアリングを行う。                        | <p>●たふさぼ</p> <p>○情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他大学で先行する支援事例について、情報収集を行い、スタッフミーティングの中で、事例・知見を共有（例：ケンブリッジ大学：大学のコロナ特設ページ、筑波大学：ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターにおける障害学生支援事例、ピアサポートの活動にする先行研究）</li> <li>・学際研究共創センター（TReND センター）による「社会的孤立・孤独」拡大勉強会において、東京大学相談支援研究開発センター・渡辺慶一郎教授から先行する支援事例について聴取</li> <li>・「大学等における教育FD動画コンテンツ」（代表校：東北大学）の中で、学生の支援に特化した一連のFD動画の視聴や学生相談関連の事例集を活用し、スタッフ間の研修を実施</li> </ul> <p>●学生支援MO</p> <p>○情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第43回全国国立大学学生指導担当副学長協議会及び第113回東京地区国公立大学学生関係副学長・部長会議に参加し、支援事例等を確認</li> </ul> | Ⅲ |
| 【11-5】対面、オンライン、メールなどの実施形式を効果的に活用した相談体制を構築する。           | <p>●たふさぼ</p> <p>○相談・情報共有体制整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の希望・状況に応じて、対面・オンライン・メール・電話の形式で相談を受けられる体制整備</li> <li>・学生支援関連組織や部局との情報交換</li> </ul> <p>●留学支援共同利用センター</p> <p>○相談体制・相談実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の希望又は相談員の判断により、Zoomによるオンライン、対面、メールで相談を実施</li> <li>・「ただいま海外留学中」に寄せられた近況報告の中で、フォローアップが必要と思われるものについては、別途、Zoomによる面談を実施</li> </ul>                                                                                                                                                                                 | Ⅲ |

|                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |   |
|-----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
|                                                     | ・留学生相談員 2 名体制で、2022 年度は 264 件の学生個別相談に対応                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |   |
| 【11-6】支援に関するオンラインコンテンツの充実を図る。                       | <p>●留学支援共同利用センター</p> <p>○情報発信</p> <p>・TUFS Moodle 上に「留学に関するお知らせ」を開設し、留学に関する説明会の動画・配布資料、留学制度の説明資料、海外での危機管理に関する資料、留学フェアで使用された資料、ショートビジットプログラムの協定校からのプログラム紹介動画等を掲載</p> <p>●保健管理センター</p> <p>○情報発信と Zoom 面談</p> <p>・大学ホームページに「ほけせんだより」を掲載し、定期健康診断の案内・熱中症対策などの情報を発信</p> <p>・通学困難な学生に対する Zoom での面談を実施</p> <p>●総合情報コラボレーションセンター（ICC）</p> <p>○AI の活用</p> <p>・チャットボットの導入検討</p> | Ⅲ |
| 【11-7】学術情報基盤システムの更新準備、情報セキュリティ対策の強化、無線環境の拡張などに取り組む。 | <p>●ICC</p> <p>○学術情報基盤システムの更新準備</p> <p>・学術情報基盤システムは、2023 年 3 月開札完了（2023 年 9 月導入予定（一部を除く。））</p> <p>○情報セキュリティ対策の強化</p> <p>・メールの不正認証対策として、1 日 50 回以上のメール送信認証が行われた際に、サーバ監視システムからチャットで通知をする設定を追加</p> <p>・2022 年 9 月 Zoom 用ネットワーク認証中継：共通パスワード方式から個人パスワード認証への対応開始</p> <p>○無線環境の拡張</p> <p>・アクセスポイント増設等により、無線環境の改善</p>                                                        | Ⅲ |

#### ○ 評価指標【⑮学生連携支援ネットワーク】

|      |                                                                                            |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ⑮学生支援諸組織を総括する学生支援プラットフォームによる活動の充実の度合を、支援された学生の声などにより改善に結びつけた事例で確認し、豊かな学生生活の実現に向けた事業の進捗を計る。 |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------|

※「学生支援プラットフォーム」は「学生連携支援ネットワーク」として 2023 年 4 月に設置されました。

#### 【⑮学生連携支援ネットワーク】

|    |      |
|----|------|
| 年度 | 取組状況 |
|----|------|

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2022 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●学生支援諸組織を総括する体制構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学生連携支援ネットワーク」を2023年4月発足</li> </ul> </li> </ul> <p>(構成組織)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生相談室</li> <li>・保健管理センター</li> <li>・グローバル・キャリア・センター (GCC)</li> <li>・アカデミック・サポート・センター (たふさぽ)</li> <li>・留学支援共同利用センター (トビタセンター)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●活用状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学生連携支援ネットワーク」は2023年4月設置のため、2023年度実施予定</li> </ul> </li> </ul> |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



【計画番号 12】 研究—人文社会研究の牽引

|      |                                                                                                                                                          |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中期計画 | <p>(12) 本学が強みとする多文化共生研究・地域研究を軸とした人文・社会科学研究を国際的・学際的に展開することを目指し、学内の研究所・研究センター・研究拠点などの活動や研究成果公表の方策を支援し、当該分野において先導的役割を果たすとともに、研究戦略企画推進体制を構築し、学際的研究を推進する。</p> |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 関連する年次計画                          | 関連する年次計画の実施状況等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 評価 |
|-----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 【12-1】 本学の多様な研究を、多文化共生研究を軸に体系化する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●学際研究共創センター</li> <li>○イベント <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の中のAI研究会シリーズ 2回 延べ96名参加</li> <li>・社会的孤立と孤独シリーズ 1回 18名参加</li> <li>・越境する知の共創シリーズ 3回 延べ120名参加</li> <li>・「イスラーム信頼学展示解説ツアー＆トーク」 参加者17名</li> <li>・「研究と社会との接合面について考えるワークショップ 2022 秋冬」 参加者13名 (「クロージングイベント」 参加者12名)</li> </ul> </li> </ul>                                                                                          | IV |
| 【12-2】 体系的な研究戦略企画推進体制を構築する。       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●学際研究共創センター</li> <li>○URA 業務 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「RA 協議会」に組織会員として参加 (2022.4.22)</li> <li>・RA 協議会主催「総合知 人社勉強会」に参加 (2022.5.24)</li> <li>・新潟大学研究推進機構へ訪問 (2022.10.27)</li> </ul> </li> <li>○共同研究の可能性調査のため訪問 <ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社 MUZIKA (デザイン会社) (2022.5.12)</li> <li>・大阪大学 CO デザインセンター (2022.8.31)</li> <li>・国立民族学博物館 (2022.9.1)</li> </ul> </li> </ul> | IV |

|                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |   |
|---------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
|                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ HONDA デザインセンター (2022.9.8)</li> <li>・ 東京大学生産技術研究所(2022.9.22)</li> <li>・ 大蓮寺應典院 (2022.11.17)</li> <li>・ 京都工芸繊維大学 KYOTO Design lab (2023.2.3)</li> </ul> <p>○「学際共創プラットフォーム（仮）」の体制構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中心機関：学際研究共創センター、国際高等研究所、京都工芸繊維大学未来デザイン・工学機構、信州大学社会基盤研究所</li> </ul> <p>○共同研究・開発を創出する団体「渋谷 QWS」にコーポレートメンバーとして参画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「「学校の問いで遊んでみる！」QWS Question Storming with 東京外国語大学」(参加者：本学 5 名、その他 11 名、QWS ファシリテータ 2 名 計 18 名) (2023.2.17)</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                |   |
| 【12-3】学際的研究展開や外部研究資金獲得、研究成果公開を支援する。         | <ul style="list-style-type: none"> <li>●学際研究共創センター</li> <li>○「学際共創プラットフォーム（仮）」の体制構築</li> <li>・「学際共創プラットフォーム（仮）」を 2023 年度より開始できるように調整</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | Ⅲ |
| 【12-4】TUFiSCo 関連プロジェクトを立ち上げ、異分野間の研究連携を構築する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●AA 研</li> <li>○TUFiSCo 関連イベント</li> <li>・「海外学術調査フォーラム」をオンライン開催</li> <li>・オンライン研究会「コモンズカフェ」の開催（年 10 回）</li> <li>・デジタルアーカイブ学会研究大会セッション企画『「文脈」を伝える——アジア・アフリカをアーカイブするための方法的探究』（2022.11.26）</li> <li>・国際シンポジウム「変化するマレーシアとオラン・アスリ：デジタル画像を通じたフィールドとの対話」（2023.2.23）</li> <li>・国際講演会「インターフェースを越えて：デジタル人文学のためのデータとしての TEI」（2023.2.18, 2023.2.21）</li> <li>・写真展「マイノリティとして生きる——アメリカのムスリムとアイデンティティ」（2022.11.18～12.15）及び記念セミナー（2022.12.4）</li> <li>・企画展「学知の共創を考える：イスラーム信頼学・シビルダイアログキャラバンを試み」（2023.2.27～3.10）</li> <li>・「DDDling フォーラム：継承語としてのベトナム語／第 3 回ベトナム語研究会」（2023.2.18）</li> <li>・シンポジウム「トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築」（第 7 回）（2023.1.21）</li> <li>・国際セミナーシリーズ Secularization, Islamization and Globalization in South Asia: Beyond bipolar Politics in Bangladesh の第 4, 5 回（2022.12.23, 2023.2.17）</li> </ul> | Ⅳ |

|                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |          |
|-------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| <p>【12-5】現地の研究機関や大学と連携して研究を推進し、成果を国際的に発表する。</p> | <p>●AA 研</p> <p>○バイルート研究拠点の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際共同研究課題「接続する海としての地中海」の研究会開催（2022.6.14、2023.3.20）</li> <li>・国際会議開催「ウクライナ戦争のグローバル・地域的影響に関する 中東・バルカン・日本の視点」（2022.9.7）</li> <li>・第 14 回 バイルート若手研究者報告会開催（「日本における中東・イスラーム研究の最前線」（2022.11.17）</li> </ul> <p>○コタキナバル研究拠点の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「東南アジアにおけるイスラーム主義と社会・文化要因の相互作用に関する学際的研究—トランスナショナルなネットワークと現地の応答」について研究会をオンライン開催（2022.12.4、2023.2.12）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                    | <p>Ⅲ</p> |
| <p>【12-6】フィールドサイエンスに従事する内外の研究者のネットワークを構築する。</p> | <p>●AA 研</p> <p>○フィールドネット・ラウンジの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「躍動する南アジアのポピュラー音楽文化の諸相」（2022.12.11）</li> <li>・「フィールドワークってなんだ？：異分野方法論談議（霊長類学・言語学・歴史学・人類学）」を開催（2023.1.9）</li> <li>・「不確実性と対話する人類学：法律・経済・芸術・宗教の現場から」を開催（2023.3.11）</li> </ul> <p>○メールマガジン「フィールドネット便り」等による情報発信</p> <p>○OTUFiSCo との連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『『トランスカルチャー』をめぐる試（私）論』（2022.5.26）</li> <li>・『『トランスカルチャー』から見たフィールドとアーカイブ』（2022.7.14）</li> <li>・TUFiSCo-FSC ワークショップ「映像編集を通してフィールドワークを学ぼう」発表会（2023.2.4）</li> <li>・TUFiSCo-FSC International Symposium : Sexuality in Contemporary Africa: Tradition, Education and Practices（2022.11.26）</li> </ul> | <p>Ⅲ</p> |
| <p>【12-7】本学の研究成果を出版する。</p>                      | <p>●東京外国語大学出版会</p> <p>○新刊 4 点発行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『マイノリティとして生きる ——アメリカのムスリムとアイデンティティ』</li> <li>・『朝鮮人シベリア抑留 ——私は日本軍・人民軍・国軍だった』</li> <li>・『『テロとの戦い』との闘い ——あるいはイスラーム過激派の変貌』</li> <li>・『世界の中のラテンアメリカ政治』</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <p>Ⅲ</p> |

○ 評価指標【⑩研究業績数】【⑪科研費新規採択率・科研費保有数】

|      |                                                                                                               |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ⑩教員の研究業績のうち、審査などにより選別され公刊された研究業績の年間刊行数を研究の進捗として計測し、教員一人当たりの業績数を第3期中の水準(2017～2019の平均値)に対して2027年度までに20%以上増加させる。 |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【⑩研究業績数】

| 基準値          | 実績                     |      |      |      |      |      | 目標値                 |
|--------------|------------------------|------|------|------|------|------|---------------------|
| 2017-2019 平均 | 2022                   | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2027                |
| 0.802 件 /人   | 0.799 件 /人<br>(△0.37%) |      |      |      |      |      | 0.962 件 /人<br>(20%) |

※ ( ) 内は対基準値増加率

|      |                                                                      |
|------|----------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ⑪科研費の新規採択率平均を2020年度の46.7%から50%に増加させるとともに、教員一人当たりの科研費保有数1.6件の水準を維持する。 |
|------|----------------------------------------------------------------------|

【⑪科研費新規採択率】

| 基準値   | 実績    |      |      |      |      |      | 目標値  |
|-------|-------|------|------|------|------|------|------|
| 2020  | 2022  | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2027 |
| 46.7% | 37.9% |      |      |      |      |      | 50%  |

【⑪科研費保有数】

| 基準値     | 実績      |      |      |      |      |      | 目標値     |
|---------|---------|------|------|------|------|------|---------|
| 2020    | 2022    | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2027    |
| 1.6 件/人 | 1.6 件/人 |      |      |      |      |      | 1.6 件/人 |



【計画番号 13】 研究—研究資源のデジタルアーカイブ化

|      |                                                                                                                                                        |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中期計画 | (13) アジア・アフリカの多元性・重層性を可視化することを目指し、アジア・アフリカ各地域の諸機関・研究者・現地コミュニティとの協働により、デジタル技術を駆使し、異分野協働による新たな記録手法として、フィールドデータを活用したデジタルアーカイブの実践的開発研究を始めとする先端的応用的研究を展開する。 |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|          |                |    |
|----------|----------------|----|
| 関連する年次計画 | 関連する年次計画の実施状況等 | 評価 |
|----------|----------------|----|

|                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |   |
|-----------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 【13-1】フィールドサイエンスコモンズ (TUFiSCo) を設立する。                           | <p>●AA 研</p> <p>○TUFiSCo の発足</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022 年 10 月 1 日 TUFiSCo 発足</li> </ul> <p>○TUFiSCo 関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・21 件の公開イベントを実施</li> <li>・デジタルアーカイブ学会の TUFiSCo による企画セッション「文脈」を伝えるーアジア・アフリカをアーカイブするための方法的探究」を実施（11 月、琉球大学で開催）</li> <li>・年間を通じてコモンズカフェを毎月継続して実施</li> <li>・AA 研の特色ある研究活動を広めるため「みんなのデジタルヒューマニティーズ」「みんなでフィールドサイエンス」というタイトルでシリーズ化して広報を開始</li> <li>・共同利用・共同研究課題デジタルアーカイブ枠の募集を行い、2 課題を採択</li> </ul> <p>○TUFiSCo メンバーの参画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TUFiSCo のメンバーのうち 5 名が研究データ活用 WG に参画し、研究データ活用ポリシーを策定</li> <li>・研究データのリポジトリ登録の方法について仕様策定に貢献</li> </ul> | Ⅲ |
| 【13-2】オープンデータの国際標準に対応した人文知のアジア・アフリカ・デジタルアーカイブコレクション構築に向けた作業を行う。 | <p>●AA 研</p> <p>○デジタルアーカイブの充足</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア・アフリカに関するデジタルアーカイブの件数 183 件</li> </ul> <p>○TUFiSCo との共催イベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなのデジタルヒューマニティーズ」2 回開催</li> <li>・「アジア時空間データベース：研究データの公共的利用にむけて」（2023.2.14）</li> <li>・「マレー語・インドネシア語コンコーダンサー Malindo Conc の開発とその利用」（2023.3.1）</li> <li>・「文法研究とデジタル・ヒューマニティーズ(1)」（2023.3.20）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                              | Ⅳ |

○ 評価指標【⑩デジタルアーカイブ件数】

|      |                                                                                                                                          |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ⑩ 本学に TUFiSCo フィールドサイエンスコモンズを新設することにより、新たなフィールドデータの記録手法の実践的開発研究を推進し、アジア・アフリカに関するデジタルアーカイブの件数を、2020 年度までの 172 件から 2027 年度までに 182 件に増加させる。 |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【⑩デジタルアーカイブ件数】

| 基準値  | 実績   |      |      |      |      |      | 目標値  |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 2020 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2027 |

|       |       |  |  |  |  |  |       |
|-------|-------|--|--|--|--|--|-------|
| 172 件 | 182 件 |  |  |  |  |  | 182 件 |
|-------|-------|--|--|--|--|--|-------|



【計画番号 14】 研究—外国人研究者の研究参画の拡充

|      |                                                                        |
|------|------------------------------------------------------------------------|
| 中期計画 | (14) 本学の教育研究の更なる国際化を目指し、多様な雇用・協働形態を実現する制度を整え、本学の教育研究に参画する外国人研究者を増加させる。 |
|------|------------------------------------------------------------------------|

| 関連する年次計画                                                      | 関連する年次計画の実施状況等                                                                                                                                                                                                                                                                              | 評価 |
|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 【14-1】国際的な研究プロジェクトを推進し、外国人研究者の増加を実現する。                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>●研究アドミニストレーション・オフィス（研究 AO）</li> <li>○外国人研究員の招へい <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代アフリカ地域研究センターでは外国人研究員を 3 名（4 月 1 名、10 月に 2 名）招へいし、本学教員とともに共同研究を実施</li> <li>・AA 研では、外国人研究員を 4 名（4 月 1 名、9 月 2 名、10 月 1 名）招へいし、共同研究を実施</li> </ul> </li> </ul> | Ⅲ  |
| 【14-2】科研費などの研究プロジェクトの企画・遂行に際して、特定外国語教員、およびその他の外国人研究者の参加を拡大する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●総合国際学研究院</li> <li>○外国人研究者に対する科研費等応募呼びかけ <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究院教授会等で科研費説明会への参加を呼びかけるなどにより、学内の外国人研究者が参加する科研費等の外部資金への申請の増加を企図</li> </ul> </li> </ul>                                                                              | Ⅲ  |
| 【14-3】CAAS ユニットにおいて若手外国人教員を 1 名雇用する。                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>●国際日本学研究院</li> <li>○外国人教員の採用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・CAAS ユニット後継教員として 2 名採用（うち 1 名外国人教員）</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                      | Ⅲ  |
| 【14-4】共同利用・共同研究課題（一般型・外国人客員共同研究型）の推進により、外国人共同研究員の増加を推進する。     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●AA 研</li> <li>○共同利用・共同研究課題への参画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般型共同利用・共同研究課題 26 件に海外機関所属の外国人共同研究者 34 名が参与</li> <li>・外国人客員共同研究型 7 件を実施</li> </ul> </li> </ul>                                                                               | Ⅲ  |
| 【14-5】デジタルアーカイブの共同構築などを通じた外国人研究者との協働体制を推進する。                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●AA 研</li> <li>○協働体制によるデジタルアーカイブ事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・シベ語出版物書誌情報データベース（DB）構築および本文の DB 化（中国・東北師範大学）</li> <li>・カチンの伝統民話の書き起こし・翻訳データのアーカイビング（オーストラリア・メルボルン大学）</li> </ul> </li> </ul>                                               | Ⅳ  |

|  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |  |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・バントウ諸語基礎語彙集のDB化(ベルギー・ゲント大学)</li> <li>・カチン民話動画コレクションの構築(ミャンマー・カチンランドカレッジ)</li> <li>・アジア時空間データベース(台湾・中央研究院人文社会科学研究中心ほか)</li> <li>・少数民族の健康意識調査アンケートのデジタルアーカイブ化(アメリカ・セントラルコネチカット州立大学、イリノイ大学ほか)</li> </ul> <p>○各種事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インドネシア国立研究革新庁との共催による言語ドキュメンテーションワークショップをインドネシアで開催</li> <li>・デジタル化資料を用いた共同研究事業として、アーカイブ化したフィールドのデジタル画像を活用した現地の人々との対話を行うワークショップ(基幹研究人類学)を開催</li> <li>・英国所蔵写本の横断的検索エンジンおよび TEI (Text Encoding Initiative) によるメタデータ記述を実践している研究者による講演会(基幹研究歴史学・地域研究)を開催</li> </ul> |  |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|

○ 評価指標【⑱外国籍教育研究者数】

|      |                                                                |
|------|----------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ⑱本学の教育研究に参画する外国籍教育研究者数を 2021 年度時点の 46 名から 2027 年度に 50 名へ増加させる。 |
|------|----------------------------------------------------------------|

【⑱外国籍教育研究者数】

| 基準値  | 実績      |      |      |      |      |      | 目標値  |
|------|---------|------|------|------|------|------|------|
| 2021 | 2022    | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2027 |
| 46 名 | 47.85 名 |      |      |      |      |      | 50 名 |

※FTE (Full-Time Equivalent: フルタイム当量) を含めて計算しているため、小数点が生じる。



【計画番号 15】 研究一四大学連合による分野融合の推進

|      |                                                                                                                                                        |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中期計画 | (15) 複雑化する社会問題に対し分野融合的解決をもたらすとともに、高度な協働力・課題解決能力を持った人材を育成するために、四大学連合(東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京工業大学、一橋大学)が、学長・副学長レベルの定期的な連絡会を通して、協働による教育・研究・社会連携活動を幅広く企画・展開する。 |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|          |                |    |
|----------|----------------|----|
| 関連する年次計画 | 関連する年次計画の実施状況等 | 評価 |
|----------|----------------|----|

|                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |           |
|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| <p>【15-1】「ポストコロナ研究連携」(共同研究・研究資金獲得・研究者養成)を推進する。</p>              | <p>●学際研究共創センター</p> <p>○四大学連合による「大人のためのゼミ」<br/>(参加者数)<br/>第1回:145名、第2回:77名<br/>第3回:59名、第4回:59名</p> <p>○コロナ禍を総括した冊子作成<br/>・コロナの「検査」について第一線で対応していた専門家15名へのインタビュー<br/>・インタビューをもとに2回の集中討議</p> <p>○四大学キャンパスツアー<br/>・2022.11.21 東京外国語大学 参加者13名<br/>・2022.12.12 東京工業大学 参加者24名<br/>・2023.3.29 東京医科歯科大学 参加者21名<br/>※一橋大学は次年度実施予定</p>                                                                                                                                                                                       | <p>IV</p> |
| <p>【15-2】大学間連携を活用した多様な事業活動に教員・大学院生の参加を促すとともに、そのアウトプットを確認する。</p> | <p>●学際研究共創センター</p> <p>○四大学連合による「大人のためのゼミ」<br/>(参加者数:学内参加者/総参加者)<br/>第1回:34名/145名、第2回:11名/77名<br/>第3回:13名/59名、第4回:10名/59名</p> <p>○学際研究共創センター主催イベント実施<br/>(参加者数:学内参加者/総参加者)<br/>・社会の中のAI研究会(第1回):24名/46名<br/>・社会の中のAI研究会(第2回):23名/50名<br/>・越境する知の共創(第1回):22名/63名<br/>・越境する知の共創(第2回):14名/24名<br/>・越境する知の共創(第3回):9名/16名</p> <p>○東京医科歯科大学 MMA コースの授業におけるポストコロナ社会コンソーシアムの枠授業<br/>・本学受講者2名/総受講者55名</p> <p>●総合国際学研究科</p> <p>○教員・大学院生の参加呼びかけ<br/>・四大学連合等の枠組みで実施されたイベントについて、研究科教授会や研究院教授会の研究院長報告の中で紹介し、教員・大学院生の参加を呼びかけ</p> | <p>IV</p> |

|                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                         |   |
|----------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 【15-3】夏学期期間中にオンラインによる四大学学生ワークショップを開催し、学生交流を実現する。   | <p>●教育 AO</p> <p>○四大学連合同読書会開催</p> <p>日時：2022.8.18 から 9.1</p> <p>参加者：四大学学部生 33 名</p> <p>開催方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1 回合同ミーティング：ハイブリッド形式</li> <li>・第 2 回合同ミーティング：オンライン形式</li> </ul>                                              | Ⅲ |
| 【15-4】SDGs プログラムの設置や、学部における四大学間単位互換授業の拡充を進める。      | <p>●教育 AO</p> <p>○四大学連合同複合領域コース受講者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣実績：25 名、受入実績：27 名</li> </ul> <p>●国際社会学部</p> <p>○『「共生」を考える授業』作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会学部開講授業を SDGs の項目毎に分類して整理した一覧表『「共生」を考える授業』作成</li> </ul> | Ⅲ |
| 【15-5】一橋大学大学院社会学研究科との連携による共同研究・教育プロジェクトについての協議を行う。 | <p>●総合国際学研究科</p> <p>○大学院学生交流に関する覚書締結</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一橋大学大学院社会学研究科との間で、大学院学生交流に関する覚書を締結</li> <li>・同覚書に基づき、両大学の教員連携による一橋大学大学院社会学研究科「学際共創研究」2023 年度新規開講決定</li> </ul>                                                          | Ⅲ |

#### ○ 評価指標【②四大学連合による活動】

|      |                                                                                                                                                                  |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | <p>②四大学連合の協働で実施される多様な教育・研究・社会貢献連携活動（連携講座、講演会、共同研究・教育事業活動など）について、開催件数および参加者数などに関する量的向上および活動の種類の増加（企画・活動の形態やオンラインを活用した展開など新たな開催形態の開発）による質的向上を通して、第 3 期の水準を超える。</p> |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

#### 【②四大学連合による活動】

| 年度   | 取組状況                                                                                           |      |      |      |      |      |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|------|------|------|
| 2022 | ●四大学連合の協働で実施される教育活動                                                                            |      |      |      |      |      |
|      | ○2022 年度学部教育（複合領域コース）の実績（受講者数）                                                                 |      |      |      |      |      |
|      | ・海外協力コース 45 名（本学への受入れ 30 名、本学から派遣 15 名）<br>・国際テクニカルライティングコース 5 名（本学から派遣 5 名）<br>・合計 50 名 ※延べ人数 |      |      |      |      |      |
|      | 【受講者数】                                                                                         |      |      |      |      |      |
|      | 2022                                                                                           | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 |
|      | 50 名                                                                                           |      |      |      |      |      |

| <p>●四大学連合の協働で実施される研究活動</p> <p>○四大学が取り組むべき社会課題に関する集中討議【本学主催】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四大学からの執行部役員・教職員（参加者数延べ 14 名）</li> <li>・ 2022.7.1 及び 2022.7.2</li> </ul> <p>○四大学の研究特性・環境を知るためのフィールドツアー【四大学持ち回り主催】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四大学からの教職員（参加者数延べ 58 名）</li> <li>・ 2022.11.21、2022.12.12、2023.3.29</li> </ul> <p>○日本のコロナ対応に関する総括に向けた共同調査・研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対応の最前線にいた多様な現場、セクターの専門家、当事者 15 名へのインタビュー実施</li> </ul> <p>●四大学連合の協働で実施される社会貢献活動</p> <p>○「大人のためのゼミ」【一橋大学主催】（4 回実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動員数延べ 340 名</li> <li>・ 2022.6.27、2022.7.29、2022.10.4、2022.11.28</li> </ul> <p>URL: <a href="https://www.tokyo-4univ.jp/consortium-for-post-covid-19-society/consortium/#f">https://www.tokyo-4univ.jp/consortium-for-post-covid-19-society/consortium/#f</a></p> <p>○「社会との接合面を探る」（8 回開催）【本学主催】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1 回社会の中の AI 研究会（参加者数 46 名）2022.7.15</li> <li>・第 1 回越境する知の共創（参加者数 63 名）2022.9.28</li> <li>・第 2 回越境する知の共創（参加者数 24 名）2022.11.2</li> <li>・民博スタディツアー（参加者数 21 名）2022.11.18</li> <li>・第 2 回社会の中の AI 研究会（参加者数 50 名）2022.12.13</li> <li>・第 3 回越境する知の共創（参加者数 16 名）2023.2.8</li> <li>・イスラーム信頼学展示「学知の共創を考える：イスラーム信頼学・シビルダイアログキャラバンの試み」解説ツアー（参加者数 17 名）2023.3.6</li> <li>・第 4 回越境する知の共創（参加者数 12 名）2023.3.31</li> </ul> <p>○第 17 回四大学連合文化講演会（2022.10.29）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴講者数：301 名</li> <li>・Youtube 視聴回数：404 回（うち本学 101 回）（2023.5.31 現在）</li> </ul> <p>【聴講者数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>2022<br/>【第 17 回】</th> <th>2023<br/>【第 18 回】</th> <th>2024<br/>【第 19 回】</th> <th>2025<br/>【第 20 回】</th> <th>2026<br/>【第 21 回】</th> <th>2027<br/>【第 22 回】</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>301 名</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>平均<br/>236 名</td> </tr> </tbody> </table> <p>【視聴回数】</p> |                  |                  |                  |                  |                  |             | 2022<br>【第 17 回】 | 2023<br>【第 18 回】 | 2024<br>【第 19 回】 | 2025<br>【第 20 回】 | 2026<br>【第 21 回】 | 2027<br>【第 22 回】 | 目標値 | 301 名 |  |  |  |  |  | 平均<br>236 名 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|-------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----|-------|--|--|--|--|--|-------------|
| 2022<br>【第 17 回】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 2023<br>【第 18 回】 | 2024<br>【第 19 回】 | 2025<br>【第 20 回】 | 2026<br>【第 21 回】 | 2027<br>【第 22 回】 | 目標値         |                  |                  |                  |                  |                  |                  |     |       |  |  |  |  |  |             |
| 301 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                  |                  |                  |                  |                  | 平均<br>236 名 |                  |                  |                  |                  |                  |                  |     |       |  |  |  |  |  |             |

| 2023.<br>5.31 現在 | 2024.<br>5.31 現在 | 2025.<br>5.31 現在 | 2026.<br>5.31 現在 | 2027.<br>5.31 現在 | 2028.<br>5.31 現在 |
|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 17:404 回         |                  |                  |                  |                  |                  |
| ※目標値：平均 1,507 回  |                  |                  |                  |                  |                  |



【計画番号 16】 研究—西東京三大学による文理融合の推進

|      |                                                                                                                 |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中期計画 | (16) 文理を超えた知の総合によって持続可能な世界の構築に寄与することを目指し、東京農工大学、電気通信大学と形成する西東京三大学の枠組みなどを活用し、文系・理系を超えた協働による実践型の研究や社会連携事業などを推進する。 |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 関連する年次計画                                                              | 関連する年次計画の実施状況等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 評価 |
|-----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 【16-1】西東京三大学共同サステナビリティ国際社会実装研究センター（仮称）を基盤として共同研究活動を展開し、そのアウトプットを確認する。 | <p>●研究 AO</p> <p>○協定書と覚書の締結式実施（2022.7.8）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「東京外国語大学・東京農工大学・電気通信大学による西東京三大学共同サステナビリティ国際社会実装研究機構の設置」</li> <li>・「三大学連携・協力の推進に関する基本協定書の締結」</li> </ul> <p>○イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の中の AI 研究会シリーズ 2 回 延べ 96 名参加</li> <li>・越境する知の共創シリーズ 4 回 延べ 132 名参加</li> <li>・「イスラーム信頼学展示解説ツアー＆トーク」 参加者 17 名</li> </ul> <p>以下、現代アフリカ研究センター関連</p> <p>○セミナー等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ASC セミナー（11 回実施）</li> <li>・第 5 回南アフリカ・日本大学フォーラム（SAJU フォーラム）（2022.7.28～7.29）</li> <li>・日本アフラシア学会 2022 年学術大会（2022.7.9）</li> <li>・ガーナ大学との共同セミナー（2023.3.6～3.7）</li> </ul> <p>○留学生関係イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アフリカ出身留学生作品展「Feel Africa: Message Through Arts and Lens」（2022.6.7～7.6）</li> </ul> | IV |

|                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |   |
|----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
|                                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生交流会（2022.11.10）</li> </ul> <p>○ジャーナル刊行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『ASC-TUFS Working Papers Volume 3 (2023)』刊行</li> </ul> <p>○その他（現代アフリカ研究センター関連）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ステレンボッシュ大学日本センター開設シンポジウムへの協力</li> <li>・立川市生涯学習推進センター・市民協働課主催セミナーへの協力</li> </ul>                                                                                                                                                                                                 |   |
| 【16-2】共同サステナビリティ研究専攻を強化する。                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●総合国際学研究科</li> </ul> <p>○「共同サステナビリティ研究専攻」本学初の修了生輩出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019 年4月に設置した「大学院総合国際学研究科博士後期課程共同サステナビリティ研究専攻」は、2022 年度本学として初めての修了生2名輩出</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | Ⅲ |
| 【16-3】西東京三大学の枠組みで、協働基礎ゼミ、合同コロキウム、三大学グローバル・スクールを継続するとともに、新たなオンライン連携授業を構想する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●教育 AO</li> </ul> <p>○協働基礎ゼミ：1 科目開講（本学開講分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者数：15 名（うち本学4名）</li> </ul> <p>○英語化科目：10 科目開講（本学開講分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者数：219 名（うち本学196名）</li> </ul> <p>○合同説明会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三大学が連携して実施する「高校生グローバルスクール」の紹介及び各大学の概要説明を含めた三大学の合同説明会をオンライン開催（2022.5.30）</li> </ul> <p>○三大学グローバルスクール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生を対象とした三大学グローバルスクールを実施（2022.9.18～9.19、2023.3.18～3.19）</li> </ul> | Ⅲ |
| 【16-4】「技術・情報と人文」との融合」構想や社会連携事業につき、三大学での協議をすすめる。                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>●教育 AO</li> </ul> <p>○協働共通教育作業部会実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協働共通教育作業部会を2回実施（2022.6.20, 2022.12.13）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | Ⅲ |

○ 評価指標【②西東京三大学による活動】

|      |                                                                                     |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ②西東京三大学の連携枠組みなどを活用して実施する教育・研究・社会連携活動が、開催件数および参加者数などの量および活動種類の多さなどの質において、第3期の水準を超える。 |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------|

【②西東京三大学による活動】

|    |      |
|----|------|
| 年度 | 取組状況 |
|----|------|

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2022 | <p>●西東京三大学の連携枠組みなどを活用して実施する教育・研究・社会連携活動</p> <p>○博士後期課程「共同サステナビリティ研究専攻」の学位授与数<br/>2名（うち本学2名）</p> <p>○西東京三大学共同サステナビリティ国際社会実装研究センターを基盤として展開した共同研究活動の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「東京外国語大学・東京農工大学・電気通信大学による西東京三大学共同サステナビリティ国際社会実装研究機構の設置」および「三大学連携・協力の推進に関する基本協定書の締結」の協定書と覚書の締結式を実施（2022.7.8）</li> <li>・本機構を基盤として展開した共同研究活動は2023年度以降実施予定</li> </ul> <p>○高校生向け特別講習プログラムなど社会連携活動の実績</p> <p>1 高校生グローバルスクール（夏季）34名<br/>2 高校生グローバルスクール（春季）36名<br/>合計70名</p> <p>○多様な事業活動のアウトプット（開催件数、参加者数等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三大学連携（英語化科目）受講者数 309名（うち本学200名）【三大学全開講分】</li> <li>・三大学連携（協働基礎ゼミ）受講者数 67名（うち本学11名）【三大学全開講分】</li> </ul> |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



【計画番号 17】 研究—イスラームに焦点化した共同研究の推進

|      |                                                                                                                                |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中期計画 | <p>(17) 宗教人口の増大が続くイスラームの活力を理解し、今後の地球社会の長期的なあり方に関する変革的研究の推進を目指し、共同利用・共同研究拠点であるアジア・アフリカ言語文化研究所によるイスラームに関する国際的・学際的な共同研究を推進する。</p> |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 関連する年次計画                                                       | 関連する年次計画の実施状況等                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 評価 |
|----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| <p>【17-1】「イスラーム信頼学」プロジェクトや、イスラーム圏の海外オフィスを活用した国際的共同研究を推進する。</p> | <p>●AA 研</p> <p>○科研費大型プロジェクト「イスラーム信頼学」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際シンポジウム2回</li> <li>・国際ワークショップ12回</li> <li>・国内シンポジウム1回</li> <li>・国内ワークショップ11回</li> <li>・社会還元活動（展示会など）4回</li> </ul> <p>○バイルート研究拠点「接続する海としての地中海」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際ワークショップ2回</li> </ul> | IV |

|                                       |                                                                                                                           |   |
|---------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
|                                       | ○若手研究者養成<br>・報告会1回<br>・セミナー3回<br><br>○コタキナバル研究拠点「東南アジアにおけるイスラーム主義と社会・文化要因の相互作用に関する学際的研究—トランスナショナルなネットワークと現地の応答」<br>・研究会3回 |   |
| 【17-2】大学院においてイスラームに焦点化した教育プログラムを実施する。 | ●AA 研<br>・大学院博士課程の学生を対象として中東☆イスラーム研究セミナーを開催（学外から4名が参加）（2022.12.17～12.18）                                                  | Ⅲ |

#### ○ 評価指標【②AA 研究成果論文件数】

|      |                                                                                                                |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ②アジア・アフリカ言語文化研究所により組織された、イスラームに関する国際的・学際的な共同研究を含む、共同研究全体の成果論文の件数を第3期中の水準(2016～2019の平均値)に対して2027年度までに5%以上増加させる。 |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

#### 【②AA 研究成果論文件数】

| 基準値          | 実績               |      |      |      |      |      | 目標値           |
|--------------|------------------|------|------|------|------|------|---------------|
| 2016-2019 平均 | 2022             | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2027          |
| 231 件        | 279 件<br>(20.8%) |      |      |      |      |      | 243 件<br>(5%) |

※（）内は対基準値増加率



#### 【計画番号 18】 業務運営—透明性の高い法人運営の実現

|      |                                                                                                                       |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中期計画 | (18) 公正で透明性の高い法人運営の実現を目指し、学長の業務実績評価、監事による内部統制機能のモニタリング実施、経営協議会の活性化による外部の知見の取り込み、経営の自律化への取組などを実施することで、強靱なガバナンス体制を構築する。 |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 関連する年次計画                                         | 関連する年次計画の実施状況等                                                    | 評価 |
|--------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|----|
| 【18-1】学長選考・監察会議において、学長の業務実績評価を実施し、年度内に評価結果を公表する。 | ●総務企画課<br>○学長の業務執行状況確認<br>・学長選考・監察会議（2023.1.27）で業務の執行状況を確認し、結果を公表 | Ⅲ  |

|                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                 |   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
|                                                                                                                                                  | <p>○「学長選考・解任審査等規程」改正</p> <p>・学内より学長候補者の推薦がない場合等に対応するため、「学長選考・解任審査等規程」を改正</p> <p>○「学長の業務執行状況の恒常的な確認に関する事項」見直し</p> <p>・年度計画廃止に伴う、「学長の業務執行状況の恒常的な確認に関する事項」の見直しを実施</p>                                                                              |   |
| <p>【18-2】監事による業務に関する監査を実施し、監査報告書を作成する。特に大学運営における迅速な意志決定にふさわしい機能・役割の在り方や法令遵守（コンプライアンス）機能の適切性について重点的に確認するとともに、学長等との意見交換を踏まえた上で、内部統制機能の検証を実施する。</p> | <p>●監査室</p> <p>○監事の各種会議への陪席</p> <p>・教育研究評議会、総合戦略会議、経営協議会等への陪席</p> <p>○学長と監事の懇談会</p> <p>・学長、監事2名、監査室員が参加する、監査意見書についての懇談（2022.7.26）</p> <p>○その他の監査業務</p> <p>・不正行為防止計画推進本部長ヒアリング（2023.3.7）</p> <p>・事務局ヒアリング（2023.3.7）</p> <p>・連絡協議会（2023.3.28）</p> | Ⅲ |
| <p>【18-3】学長と経営協議会学外委員による懇談会を開催し、年2回程度、大学運営に関する率直な意見交換を行い、法人運営に学外者の意見を反映するよう努める。</p>                                                              | <p>●総務企画課</p> <p>○懇談会実施</p> <p>・経営協議会学外委員との懇談会2回</p> <p>○主な意見への対応状況の報告・公表迅速化</p> <p>・経営協議会・懇談会で出された主な意見に対する対応状況等の公表迅速化</p>                                                                                                                      | Ⅲ |
| <p>【18-4】法人（大学）運営における改善への取組や検証を不断に行いつつ、10月末にガバナンス・コードを改定し、公表する。</p>                                                                              | <p>●総務企画課</p> <p>○「国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書」更新</p> <p>・第3期から第4期中期目標期間への変更に伴う更新</p> <p>・新規記載事項について追記</p> <p>・数値等の年度更新</p>                                                                                                                 | Ⅲ |

○ 評価指標【②経営協議会委員・監事による意見反映】

|      |                                                                                                                                                |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | <p>②経営協議会委員との意見交換回数、その内容、意見に基づく改善事例、その効果、監事による監査回数、改善提案、その効果などを恒常的に追跡することで、外部の意見を取り込む仕組みが機能し、法人運営に活用されている状況・事例を確認し、公正で透明性の高い法人運営に向けた進捗を計る。</p> |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【②経営協議会委員による意見反映】

|    |      |
|----|------|
| 年度 | 取組状況 |
|----|------|

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2022 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●経営協議会委員との意見交換の方法と回数 <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営協議会：4回</li> </ul> </li> <li>●経営協議会の学外委員から出た意見数 <ul style="list-style-type: none"> <li>・第83回（2022.6.8）：意見3件</li> <li>・第84回（2022.10.31）：意見4件</li> <li>・第85回（2023.1.27）：意見4件</li> <li>・第86回（2023.3.29）：意見6件</li> </ul> </li> </ul> <p>URL: <a href="http://www.tufs.ac.jp/abouttufs/public_info/mc_taiou.html">http://www.tufs.ac.jp/abouttufs/public_info/mc_taiou.html</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●活用状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度は改善策を検討。2023年度に改善策を実施予定。</li> </ul> </li> </ul> |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

#### 【③監事による意見反映】

| 年度   | 取組状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2022 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●監事との意見交換の方法と回数 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学長と監事の懇談会：1回</li> <li>・連絡協議会：1回</li> </ul> </li> <li>●監事による監査回数(2回) <ul style="list-style-type: none"> <li>・不正行為防止計画推進本部長ヒアリング</li> <li>・事務局ヒアリング</li> </ul> </li> <li>●監事による改善提案件数・内容（7件） <p>○第十八期監事監査（定期監査）結果報告書＜監査意見書＞2022.7.5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に財務体質改善に係る事務手続の効率化</li> <li>・オールハザード・アプローチ型の危機管理体制の検討</li> <li>・監事常勤化への早期対応</li> <li>・監事の独立性担保及び監査室の業務負担への配慮</li> <li>・エンゲージメント型の大学経営モデルの構築</li> <li>・法務部門の強化</li> <li>・DXを活用した効果的な教育・研究（教職員の働き方を含む。）</li> </ul> <p>※改善提案に係る改善策は2023年度以降随時検討・実施予定</p> </li> </ul> |



#### 【計画番号 19】 業務運営—環境や長寿命化を意識した施設整備

|     |                                                                                             |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中期計 | <p>(19) 脱炭素化や施設の長寿命化を目指し、施設整備を着実に進めるとともに、保有資産の最大限の活用を図り、その状況を不断に点検することで、戦略的な整備・共用を実現する。</p> |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------|

|   |  |
|---|--|
| 画 |  |
|---|--|

| 関連する年次計画                                                                          | 関連する年次計画の実施状況等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 評価 |
|-----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 【19-1】自主財源を効果的・効率的に活用し、「インフラ長寿命化計画」に基づく施設整備を実施する。                                 | <p>●施設企画課</p> <p>○「インフラ長寿命化計画」に基づく施設整備</p> <p>【完成事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究講義棟1～4階：照明設備更新（LED化）</li> <li>・留学生日本語教育センター棟：外壁改修及び屋上防水改修</li> </ul> <p>【継続事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生日本語教育センター棟：空調設備改修（完成期限 2023.10.31）</li> <li>・アゴラ・グローバル：太陽光発電設備設置（完成期限 2023.11.30）</li> <li>・本部管理棟他：エネルギー監視・管理システム改修（完成期限 2023.6.30）</li> </ul> | Ⅲ  |
| 【19-2】保有施設の有効活用を図るため、教育研究活動に支障の無い範囲で大学施設（本郷サテライト含む。）の外部貸出を積極的に行い、年間1千万円以上の収入を目指す。 | <p>●施設企画課</p> <p>○施設の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究講義棟や本郷サテライトを中心とした外部貸出の実施及び目標収入の達成</li> <li>・保谷宿舎の廃止決定</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                        | Ⅳ  |

○ 評価指標【②④保有資産の利用状況・施設の外部貸出状況】

|      |                                                                         |
|------|-------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ②④保有資産の利用状況や施設の外部貸出の状況などを毎年追跡し、外部貸出においては、2022～2027年度の平均が1千万以上の収入を目標とする。 |
|------|-------------------------------------------------------------------------|

【②④保有資産の利用状況】

| 年度   | 取組状況                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2022 | <p>●保有資産の貸出状況</p> <p>外部貸出件数：100件</p> <p>（内訳）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・府中キャンパス 71件<br/>貸出用途：資格試験20件、撮影17件、英語研修7件、公演6件、その他21件</li> <li>・本郷サテライト 29件<br/>貸出用途：勉強会6件、理事会5件、総会4件、打合せ4件、研修3件、その他7件</li> </ul> <p>●保有資産の売却状況</p> <p>なし</p> |

【④施設の外部貸出状況（金額）】

| 基準値 | 実績        |      |      |      |      |      | 目標値      |
|-----|-----------|------|------|------|------|------|----------|
| -   | 2022      | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2027     |
| -   | 36,633 千円 |      |      |      |      |      | 1,000 万円 |



【計画番号 20】 業務運営—財政基盤の強化

|      |                                                                                                                                                   |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中期計画 | （20）財務基盤の強化を目指し、本学の教育研究の特色をいかした社会連携事業の拡充や、施設の有効活用の推進等による自己収入の確保に努める。また、教育、研究等の目標に応じた学内での成果・実績に基づく配分額の決定とともに、人事ポストを含めた学長裁量経費の充実により、学内の資源配分の最適化を図る。 |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 関連する年次計画                                                                                        | 関連する年次計画の実施状況等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 評価 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 【20-1】オープンアカデミーの開講科目の充実や外部機関と連携した社会連携活動を積極的に実施し、2020 年度実績以上の収入を確保する。                            | <p>●広報・社会連携課</p> <p>○オープンアカデミー講座の受講料収入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・春期間 57,498,000 円</li> <li>・夏期間 5,330,000 円</li> <li>・秋期間 46,118,100 円</li> <li>・合計 108,946,100 円</li> </ul> <p>○オンライン日本語講座の受講料収入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・春期間 2,054,400 円</li> <li>・秋期間 1,950,600 円</li> <li>・合計 4,005,000 円</li> </ul> | Ⅲ  |
| 【20-2】保有施設の有効活用を図るため、教育研究活動に支障の無い範囲で大学施設（本郷サテライト含む。）の外部貸出を積極的に行い、年間1千万円以上の収入を目指す。【再掲 p.50 19-2】 | <p>●施設企画課</p> <p>○施設の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究講義棟や本郷サテライトを中心とした外部貸出の実施及び目標収入の達成</li> <li>・保谷宿舍の廃止決定</li> </ul>                                                                                                                                                                                                      | Ⅳ  |

|                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 【20-3】TUFiSCo の機能強化を含め教育研究組織の改革案を立案し、文部科学省に対し積極的に概算要求を提出することによって、新たな教員人事ポストの確保に取り組んでいく。 | <p>●会計課</p> <p>○ミッション実現加速化経費教育研究組織改革分</p> <p>・「T U F S 現代地域研究機構（仮称）による平和構築と国際協調の促進」採択 61,981 千円</p> <p>（内訳）</p> <p>・教員人件費 2 名分 26,781 千円</p> <p>・事業推進費 11,200 千円</p> <p>・関連プロジェクト経費 24,000 千円</p>                                                                                                              | Ⅲ |
| 【20-4】各部局等への予算配分において成果指標を活用し、評価結果の予算配分への反映と可視化を図る。                                      | <p>●会計課</p> <p>○教育研究における価値の最大化する具体的な 4 つの取組</p> <p>・文部科学省による「成果を中心とする実績状況を活用した配分」を学内にも適用</p> <p>・本学独自指標を用いて学内部局予算に配分</p> <p>・コスト見える化を活用した部局間の比較により教育研究等の成果・実績等を予算配分に活用</p> <p>・学長裁量経費の「人事給与マネジメント効果による学長裁量ポスト」等の拡充により、教育、研究、社会貢献の 3 つの目標に応じた成果に基づき、配分額を決定</p>                                                  | Ⅲ |
| 【20-5】特定基金の新規創設をはじめ、基金における目的の明確化を行い、寄附金収入の拡充を図る。                                        | <p>●総務企画課（基金室）</p> <p>○植栽基金の設置</p> <p>・特定基金として「植栽基金」を 2022 年 11 月に設置し、ホームページでの広報、退職者への周知を実施</p> <p>○人工芝基金の周知</p> <p>・2022 年 9 月に「グラウンド人工芝化プロジェクト」の web ページ作成</p> <p>・2023 年 2 月に統合レポートと一緒に卒業生に対して人工芝基金への寄附依頼（21,000 名程度）</p> <p>・2023 年 3 月に卒業生の保護者への寄附依頼（900 名程度）</p> <p>・総寄附額 43,196,000 円（2023.3.12 現在）</p> | Ⅲ |

○ 評価指標【㊟公開講座・施設利活用収入等割合】

|      |                                                                                                            |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ㊟自己収入、社会連携関連受託事業等受入額、寄附金受入額の合計に占める、公開講座収入や施設利活用等関連収入等の自己収入及び両受入額の割合を 2020 年度の 7.19%から 2027 年度までに 9%に増加させる。 |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【㊟公開講座・施設利活用収入等割合】

| 基準値  | 実績   |      |      |      |      |      | 目標値  |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 2020 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2027 |

|       |        |  |  |  |  |  |     |
|-------|--------|--|--|--|--|--|-----|
| 7.19% | 12.73% |  |  |  |  |  | 9 % |
|-------|--------|--|--|--|--|--|-----|



【計画番号 21】 業務運営—自律的な点検・評価

|      |                                                                                                                                             |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中期計画 | (21) 中長期的な目標に対し、年次レベルで達成すべき年次計画を策定し、その進捗を全学点検・評価委員会において毎年度2回程度点検・評価する。また、IR機能を充実させ、大学の実績や業務に関する情報を可視化し、構成員間に共有する。以上により、自律的で透明性の高い大学運営を実現する。 |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 関連する年次計画                                                                 | 関連する年次計画の実施状況等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 評価 |
|--------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 【21-1】新たに作成する点検・評価フォーマットにより、年次計画の進捗について、年2回点検・評価を行う。                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●総務企画課</li> <li>○点検・評価方法、時期の改善</li> <li>・点検・評価フォーマットを変更し、点検・評価と翌年度の年次計画の収集を一体化</li> <li>・中間評価結果報告の早期化</li> <li>・期末評価のとりまとめを年度内に実施し、部局長の変更に対応</li> </ul>                                                                                                                                | Ⅲ  |
| 【21-2】教育情報、研究情報の可視化と情報共有を図るため、新たに教育白書・研究白書の作成を進める。                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●総務企画課</li> <li>○教育情報・研究情報の可視化・情報共有</li> <li>・教育白書 2022 を初めて作成</li> <li>・研究白書 2022 を初めて作成</li> <li>・IR サイト (Institutional Research TUFs) を構築し、同白書を公表<br/>URL: <a href="http://www.tufs.ac.jp/abouttufs/public_info/ir/">http://www.tufs.ac.jp/abouttufs/public_info/ir/</a></li> </ul> | Ⅳ  |
| 【21-3】経年比較を含めた留学情報の可視化と情報共有を図るため、引き続き、留学白書を作成する。                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>●留学支援共同利用センター</li> <li>○留学情報の可視化・情報共有</li> <li>・留学白書 2021 の作成</li> <li>・IR サイトに公表(URL は【21-2】参照)</li> </ul>                                                                                                                                                                            | Ⅲ  |
| 【21-4】国立大学法人東京外国語大学における内部質保証に関する要項に基づき、各部局・オフィス等が行う内部質保証の取組状況について、点検を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●総務企画課</li> <li>○内部質保証の状況報告</li> <li>・教育研究評議会 (2022.10.25) で「令和3年度内部質保証の状況報告について (報告)」を報告</li> <li>・同報告により、2022 年度から大学院修了生アンケートが実施開始</li> </ul>                                                                                                                                        | Ⅲ  |

○ 評価指標「②点検・評価活動」【⑦IR 機能】

|      |                                                                                  |
|------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ②⑥年次計画を策定し、計画に沿った事業の進捗を、年に2回程度点検し、その結果を翌年度の計画策定に反映させることにより、自律的な法人経営の実現に向けた進捗を計る。 |
|------|----------------------------------------------------------------------------------|

#### 【②⑥点検・評価活動】

| 年度   | 取組状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2022 | <p>●中間評価（2022年9月30日時点評価）</p> <p>○点検・評価状況</p> <p>・全学点検・評価委員会で報告書を作成し、年次計画の進捗状況を学長室会議（2022.11.29）で報告</p> <p>○フィードバック状況</p> <p>・全学点検・評価委員会から同会議で進捗状況が良くない点を共有</p> <p>●期末評価（2023年3月31日時点評価）</p> <p>○点検・評価状況</p> <p>・全学点検・評価委員会で報告書（本書）を作成し、年次計画の達成状況を教育研究評議会（2023.6.20）で報告予定</p> <p>○フィードバック状況</p> <p>・全学点検・評価委員会から同会議で達成状況が良くなかった点を報告予定</p> |

|      |                                                                |
|------|----------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ②⑦IR機能により大学の実績が可視化され、それを活用した事例を確認することで、透明性の高い法人経営の実現に向けた進捗を計る。 |
|------|----------------------------------------------------------------|

#### 【②⑦IR機能（教育）】

| 年度   | 取組状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2022 | <p>●可視化の状況</p> <p>○教育白書</p> <p>・「教育白書2022」を初めて作成（2022.11.22）</p> <p>・同白書には、「入学者数」「在籍者数」の経年変化等を記載し可視化<br/>URL: <a href="http://www.tufs.ac.jp/abouttufs/public_info/ir/education/">http://www.tufs.ac.jp/abouttufs/public_info/ir/education/</a></p> <p>○「成果を中心とする実績状況に基づく配分」に係る報告書</p> <p>・『令和4年度「成果を中心とする実績状況に基づく配分」に係る報告書』を初めて作成</p> <p>・同報告書には「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の指標を他大学比較が可能な形で掲載</p> <p>・教育に関する指標：「卒業・修了者の就職・進学等の状況」「博士号授与の状況」など</p> <p>●活用状況</p> <p>・2022年度は活用策を検討。2023年度に活用策を実施予定。</p> |

#### 【②⑦IR機能（研究）】

| 年度 | 取組状況 |
|----|------|
|----|------|

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2022 | <p>●可視化の状況</p> <p>○研究白書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「研究白書 2022」を初めて作成（2022.11.22）</li> <li>・同白書には、「研究者数」「研究費予算」の経年変化等を記載し可視化</li> </ul> <p>URL: <a href="http://www.tufs.ac.jp/abouttufs/public_info/ir/research/">http://www.tufs.ac.jp/abouttufs/public_info/ir/research/</a></p> <p>○「成果を中心とする実績状況に基づく配分」に係る報告書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『令和4年度「成果を中心とする実績状況に基づく配分」に係る報告書』を初めて作成</li> <li>・同報告書には「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の指標を他大学比較が可能な形で掲載</li> <li>・研究に関する指標：「若手研究者比率」「常勤教員当たり研究業績数」など</li> </ul> <p>●活用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度は活用策を検討。2023年度に活用策を実施予定。</li> </ul> |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

#### 【⑦IR機能（留学）】

| 年度   | 取組状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2022 | <p>●可視化の状況</p> <p>○留学白書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「留学白書 2021」を作成し、「留学状況」の経年変化等を可視化</li> </ul> <p>URL: <a href="http://www.tufs.ac.jp/abouttufs/public_info/ir/study-abroad/">http://www.tufs.ac.jp/abouttufs/public_info/ir/study-abroad/</a></p> <p>○スーパーグローバル大学創成支援事業(SGU)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「SGU 東京外国語大学目標の進捗状況」を初めて作成（2023.2.6）</li> <li>・同資料には、SGUの各指標を他のSGU採択校と比較できる形で掲載</li> </ul> <p>URL: <a href="https://www.tufs.ac.jp/documents/collaboration/intlaffairs/sgu/all.pdf">https://www.tufs.ac.jp/documents/collaboration/intlaffairs/sgu/all.pdf</a></p> <p>●活用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度は活用策を検討。2023年度に活用策を実施予定。</li> </ul> |

#### 【⑦IR機能（大学全般）】

| 年度   | 取組状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2022 | <p>●可視化の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「統合レポート 2022」を作成し、本学のビジョン、活動、ガバナンス・外部見識・サポート、財務情報を可視化</li> </ul> <p>URL: <a href="http://www.tufs.ac.jp/documents/abouttufs/pr/pr-brochures/TUFS_ir2022_1p_low_rev.pdf">http://www.tufs.ac.jp/documents/abouttufs/pr/pr-brochures/TUFS_ir2022_1p_low_rev.pdf</a></p> <p>●活用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度は活用策を検討。2023年度に活用策を実施予定。</li> </ul> <p>※統合レポートは2021.12.28初めて作成。</p> |



【計画番号 22】 業務運営—ステークホルダーとの対話

|      |                                                                                                   |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中期計画 | (22) ステークホルダーたる学生・保護者・卒業生・地域・産業界の意見を大学運営に反映させることを目指し、情報提供や対話の場を設定し、意見交換を行うことで、法人経営に対する理解・支持を獲得する。 |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 関連する年次計画                                                                                       | 関連する年次計画の実施状況等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 評価 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 【22-1】ステークホルダーへの説明責任を適切に果たすため、本学のビジョンや活動状況、大学運営、財務状況等について記載した統合レポートについて、内容の改善を図りつつ、12月までに発行する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●広報・社会連携課</li> <li>○ステークホルダーへの説明責任を果たす取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学のビジョンや活動状況、大学運営、財務状況等について記載した『統合レポート2022』刊行（2022.12.28）</li> <li>・本学同窓会組織と連携し、卒業生約20,000人に同レポートの冊子を郵送し、意見等を収集</li> <li>・電子版をウェブサイトでも公開</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                                                              | Ⅲ  |
| 【22-2】大学の近況や、留学支援、就職支援状況等について理解を深めてもらうため、本学に在籍する学生の保護者に対して、保護者説明会を年2回開催する。                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●学生課</li> <li>○大学の近況等についての保護者への説明 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生向け保護者説明会（2022.7.9）</li> <li>・2・3年次向け保護者説明会（2023.3.4）</li> <li>・同説明会で出た保護者からの意見を大学運営に反映</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                                                                                                                    | Ⅲ  |
| 【22-3】外語会（本学同窓会組織）の協力も得ながら、卒業生に対する情報発信を行い、卒業生の各種支援を得るための理解促進に努める。                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>●総務企画課</li> <li>○基金に関する取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年2月卒業生に対して統合レポート、寄附依頼を送付（約21,000名）</li> <li>・2023年3月「コロナ禍困窮学生支援事業に関する覚書（2021年締結）」を再締結、事業実施期限を2024年までに延長</li> </ul> </li> <li>●広報・社会連携課</li> <li>○卒業生に対する情報発信等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓生情報データベースシステムの導入</li> <li>・卒業生への情報発信に伴う言語文化サポートへの登録増加</li> <li>・150周年記念事業として講演会等を企画し、卒業生等にウェブサイトを通じて情報発信</li> </ul> </li> </ul> | Ⅲ  |
| 【22-4】地域団体及び地方公共団体等の意見を大学運営に活用するため、地域団体等と意見を交換する機会に積極的に参加する。                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●広報・社会連携課</li> <li>○地方公共団体との主な交流 <ul style="list-style-type: none"> <li>・府中市市民協働推進会議出席</li> <li>・府中市総合計画重点プロジェクト（府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略）推進協議会委員</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                            | Ⅲ  |

|                           |                                                                                                                                                                                                                                                 |   |
|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
|                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・調布市との定例会 4 回</li> </ul> <p>○地域団体との主な交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栃木県経済同友会との多文化共生に係る意見交換</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学同窓会組織（東京外語会）との定例会</li> </ul> |   |
| 【22-5】学生と大学執行部との対話の場を設ける。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●たふさぼ</li> </ul> <p>○学生と大学執行部の対話</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・林学長とおしゃべり会実施<br/>テーマ「外大での学び・あったらいいこんな授業」<br/>参加者 13 名</li> </ul>                                                            | Ⅲ |

#### ○ 評価指標【⑳ステークホルダーによる意見反映】

|      |                                                                                                                      |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | <p>⑳連携先企業や卒業生、在学生、保護者などステークホルダーとの対話が定期的に持たれ、ステークホルダーからの意見が大学運営に活用されている状況・事例を確認することで、外部の意見を取り入れた法人経営の実現に向けた進捗を計る。</p> |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

#### 【ステークホルダー（企業等）からの意見反映】

| 年度   | 取組状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2022 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●実施状況</li> </ul> <p>○2021 年度企業アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に企業が本学学生に求める能力について調査するもの</li> <li>・実施期間：2022 年 2 月 8 日～4 月 30 日</li> <li>・回答依頼先企業・機関数：123 社（過去 5 年就職者数上位企業）</li> <li>・回答数：26 企業・機関（回答率：21.1%）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●活用状況</li> <li>・2022 年度は活用策を検討。2023 年度に活用策を実施予定。</li> </ul> |

#### 【ステークホルダー（卒業生）からの意見反映】

| 年度   | 取組状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2022 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●実施状況</li> </ul> <p>○2022 年度実施 OB・OG アンケート【卒業生（1 年目）対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に在学中に経験した又は身につけたことが職業に役立っているかについて調査するもの</li> <li>・実施期間：2022 年 12 月 1 日～2023 年 1 月 31 日</li> <li>・回答数：89 名/937 名（回答率 9.5%）</li> </ul> <p>○2022 年度実施 OB・OG アンケート【卒業生（3・5 年目）対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に在学中に経験した又は身につけたことが職業に役立っているかについて調査するもの</li> <li>・実施期間：2022 年 8 月 3 日～10 月 12 日</li> </ul> |

|  |                                                                                                                                                                                    |
|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・回答数：180 名/1346 名（回答率 13.4%）</li> <li>●活用状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022 年度は活用策を検討。2023 年度に活用策を実施予定。</li> </ul> </li> </ul> |
|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【ステークホルダー（在学生）からの意見反映】

| 年度   | 取組状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2022 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●実施状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業評価アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に授業内容について学生が評価するもの</li> <li>・春学期/秋学期の年 2 回実施（大学院は年 1 回）</li> <li>・休学者を除く学部生・大学院生が対象</li> </ul> </li> <li>○大学満足度及び達成度調査（大学院は大学満足度調査） <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に在学中の大学（院）生活全体の満足度と自身の達成度について調査するもの</li> <li>・年 1 回実施</li> <li>・卒業（修了）予定の学部生・博士前期課程学生が対象</li> </ul> </li> <li>○学生生活・意識調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に授業以外の活動について調査するもの</li> <li>・年 1 回実施</li> <li>・学部 1 年生/3 年生・博士前期課程学生が対象</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>●活用状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022 年度は活用策を検討。2023 年度に活用策を実施予定。</li> </ul> </li> </ul> |

【ステークホルダー（保護者）からの意見反映】

| 年度   | 取組状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2022 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者説明会 <ul style="list-style-type: none"> <li>○新入生向け保護者説明会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日：2022 年 7 月 9 日（土）</li> <li>・意見・質問件数：69 件</li> </ul> </li> <li>○2・3 年次向け保護者説明会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日：2023 年 3 月 4 日（土）</li> <li>・意見・質問件数：142 件</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>●活用状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022 年度は活用策を検討。2023 年度に活用策を実施予定。</li> </ul> </li> </ul> |

【ステークホルダー（地域住民等）からの意見反映】

| 年度 | 取組状況 |
|----|------|
|----|------|

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2022 | <p>●実施状況</p> <p>○記者懇談会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回記者懇談会<br/>開催日：2022年7月25日（月）<br/>参加記者数：14名（9機関）</li> <li>・第2回記者懇談会<br/>開催日：2023年3月2日（木）<br/>参加記者数14名（9機関）</li> </ul> <p>○地域交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日：2022年10月26日（水）</li> <li>・参加機関：調布市役所、府中市役所、紅葉丘文化センター、近隣町会</li> </ul> <p>●活用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度は活用策を検討。2023年度に活用策を実施予定。</li> </ul> |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



【計画番号 23】 業務運営—デジタル・キャンパスの実現

|      |                                                                                                                                                           |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中期計画 | <p>（23）大学の業務運営の効率化・高度化を目指し、システムの導入や、人材の育成等に取り組むことで、大学のDX化を推進し、デジタル・キャンパスの実現を目指す。また、情報セキュリティポリシーの定期的な点検及び見直しを行うとともに教職員への研修の実施など必要な措置を講じ、セキュリティ対策を徹底する。</p> |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 関連する年次計画                                                          | 関連する年次計画の実施状況等                                                                                                                                                                                                        | 評価 |
|-------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 【23-1】業務運営の効率化や情報セキュリティリスクに対処するため、情報システムの更新・導入を行う。                | <p>●情報企画室</p> <p>○学術情報基盤システム及び事務システム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開札完了し、2023年9月（一部機材は2024年9月）に導入予定</li> </ul>                                                                                          | Ⅲ  |
| 【23-2】学内のDX化と情報セキュリティ向上を図るため、教職員に対して業務運営DX化及び情報セキュリティの啓発・研修を実施する。 | <p>●情報企画室</p> <p>○情報セキュリティ研修等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報セキュリティ自己点検（2022.7）</li> <li>・情報セキュリティ研修（2022.9）</li> </ul> <p>○業務運営DX化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DX計画の状況確認実施</li> </ul> | Ⅲ  |

|                                                               |                                                                                                                                                                                                                                            |   |
|---------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 【23-3】教職員の人事・会計に関する諸手続きのDX化に着手する。                             | <p>●情報企画室</p> <p>○オンライン口座登録（会計関係手続）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022 年度秋学期入学学部生に試験導入</li> <li>・2023 年度入学学部生から本格導入予定</li> </ul> <p>○給与明細 Web 化（人事関係手続）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給与明細 Web 化を実施</li> </ul> | Ⅲ |
| 【23-4】学生の利便性向上と事務手続の効率化を図るため、証明書の発行をはじめ、学生の窓口関係諸手続きのDX化に着手する。 | <p>●情報企画室</p> <p>○DX による学生・事務手続の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パスワード再発行、学認、Eduroam 利用申請等のオンライン受付（2021 年度導入済）</li> <li>・自転車登録申請のオンライン受付</li> </ul>                                                                         | Ⅲ |
| 【23-5】Wi-Fi の接続環境の改善をはじめ、キャンパス内におけるオンライン教育システム環境の利便性向上を図る。    | <p>●情報企画室</p> <p>○オンライン教育システム環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有線 LAN 装備した学習ボックス（たふぼくす）の設置</li> <li>・アクセスポイント増設等により、無線環境の改善</li> </ul>                                                                                     | Ⅲ |

#### ○ 評価指標【⑳DX 推進計画】

|      |                                                                                    |
|------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価指標 | ㉑大学が 2020 年度に策定した「DX 推進計画」を見直しつつ、年度計画を策定して実施したデジタル化推進事業を確認し、デジタル・キャンパス実現に向けた進捗を計る。 |
|------|------------------------------------------------------------------------------------|

#### 【㉑DX 推進計画】

| 年度   | 取組状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2022 | <p>●DX に関する取組</p> <p>○学生関連 DX</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部一般選抜における入学手続オンライン化</li> <li>・ショートビジット（短期留学）応募申請の Web フォーム化</li> <li>・学生の学費納入口座をオンライン登録するシステムの導入</li> <li>・「同窓生情報データベースシステム」の導入</li> <li>・国立国会図書館が提供する図書館向けデジタル化資料送信サービスの本格的運用開始</li> </ul> <p>○教職員関連 DX</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤講師の契約手続の電子化</li> <li>・健康診断・予防接種受付の Web フォーム化</li> <li>・Web 給与明細導入</li> <li>・「著者記号管理システム」の運用開始</li> <li>・「出版会在庫管理システム」の運用開始</li> </ul> <p>●「DX 推進計画」の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「第四期中期目標・中期計画期間における DX 推進計画」を新たに策定</li> </ul> |

(本件担当)

東京外国語大学総務企画課評価企画係

Tel: 042-330-5152

Mail: [soumu-hyouka@tufs.ac.jp](mailto:soumu-hyouka@tufs.ac.jp)